

学位授与方針
教育課程の編成・実施方針
入学者受入方針

(大学院課程)

令和 6 年 6 月
東京大学

目 次

東京大学大学院課程	2
人文社会系研究科	3
教育学研究科	7
法学政治学研究科	9
経済学研究科	12
総合文化研究科	14
理学系研究科	16
工学系研究科	18
農学生命科学研究科	21
医学系研究科	23
薬学系研究科	27
数理科学研究科	29
新領域創成科学研究科	31
情報理工学系研究科	33
学際情報学府	35
公共政策学教育部	36

東京大学大学院課程

東京大学憲章（抜粋）
（教育の目標） 東京大学は、東京大学で学ぶに相応しい資質を有するすべての者に門戸を開き、広い視野を有するとともに高度の専門的知識と理解力、洞察力、実践力、想像力を兼ね備え、かつ、国際性と開拓者の精神をもった、各分野の指導的人格を養成する。このために東京大学は、学生の個性と学習する権利を尊重しつつ、世界最高水準の教育を追求する。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学は、学術研究及び高等教育の使命を自覚し、その達成に向けて、東京大学のよって立つべき理念と目標を東京大学憲章として定め、国内外の様々な分野で指導的役割を果たしうる「世界的視野をもった市民のエリート」を育成することが、社会から託された自らの使命であると考えています。このような使命のもとで、東京大学が目指すのは、「広い視野を有するとともに高度の専門的知識と理解力、洞察力、実践力、想像力を兼ね備え、かつ、国際性と開拓者の精神をもった、各分野の指導的人格」（東京大学憲章）の養成です。 <u>修士課程</u> 東京大学憲章に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に、修士の学位を授与します。 ● 広い視野に立つ深い学識を有し、専攻分野において、専門的知識・技能に基づき、高い研究遂行能力または高度の専門性が求められる職業に従事できる能力を有している。 ● 公共的な責任感の上に高い倫理観及び指導的役割を果たす自覚を持って、人類、社会及び学術の発展に貢献することができる。 ● 社会において、未踏の領域に挑戦し、グローバルな視点から様々な課題に対応できる課題発見・解決能力と国際的コミュニケーション能力を身につけている。 <u>専門職学位課程</u> 東京大学憲章に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に、専門職の学位を授与します。 専攻分野における専門知識を修得し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識、卓越した能力及び高い倫理観を有し、社会の発展に貢献することができる。 <u>博士課程（医・獣医・薬学履修課程を含む）</u> 東京大学憲章に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に、博士の学位を授与します。 ● 豊かな学識を有し、専攻分野において、高度な専門的知識・技能に基づき、自立した研究者としての独創的な研究遂行能力または高度に専門的な業務に従事できる卓越した研究能力を有している。 ● 人類の過去と未来を俯瞰する幅広い視野を持ち、公共的な責任感の上に高い倫理観及び指導的役割を果たす自覚を持って、人類及び社会が直面する課題を解決するため、創造的に活動することができる。 ● 専門分野に関する高度な国際的視野とコミュニケーション能力を持ち、世界水準の研究成果の発表と社会への還元を通じて、当該分野における研究を先導することができる。	東京大学の大学院課程では、多様な専門分野に展開する研究科、附置研究所等を有する総合大学の特性を活かし、研究者および高度専門職業人の養成のために広範な高度専門教育を行います。 <u>修士課程</u> 学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ● 高度な専門的知識と技能を学び、世界最先端の研究へとつながる体系的な専門科目とともに、専門分野に限らない幅広い学識と視野を獲得できる学際的科目によるカリキュラムを提供する。 ● 論文作成等に係る研究指導体制を通じて、高い研究遂行能力を育成する。 ● 研究遂行に求められる高い倫理観を育む機会を提供する。 ● 学修成果の評価にあたっては、予め明示した成績評価基準に基づき、厳格な評価を行い、修士論文または特定の課題に基づいて研究成果の審査及び試験を適切に行う。それらの活用を通じて、教育方法の改善につなげる。 <u>専門職学位課程</u> 学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ● 専攻する分野に応じて、高度専門職業人として必要な専門的知識・技能が修得できる専門科目を体系的に提供する。 ● 専攻する分野に応じて、事例研究や実務教育等の適切な教育方法・授業科目と高度の専門性が求められる職業を担うための高い倫理観を育む機会を提供する。 ● 学修成果の評価にあたっては、予め明示した成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。それらの活用を通じて、教育方法の改善につなげる。 <u>博士課程（医・獣医・薬学履修課程を含む）</u> 学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ● 世界最先端の研究を通じて、卓越した専門的知識と技能を学ぶことができる体系的なカリキュラムを提供する。 ● 論文作成等に係る研究指導体制を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力を育成する。 ● 研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。 ● 学修成果の評価にあたっては、予め明示した成績評価基準に基づき、厳格な評価を行い、博士論文に基づいて研究成果の審査及び試験を適切に行う。それらの活用を通じて、教育方法の改善につなげる。	<u>東京大学の使命と教育理念</u> 1877年に創立された我が国最初の国立大学である東京大学は、国内外の様々な分野で指導的役割を果たしうる「世界的視野をもった市民のエリート」（東京大学憲章）を育成することが、社会から託された自らの使命であると考えています。このような使命のもとで本学が目指すのは、自らによって立つ歴史や文化に深い理解を示すとともに、国際的な広い視野を持ち、高度な専門知識を基盤に、問題を発見し、解決する意欲と能力を備え、市民としての公共的な責任を受けながら、強靱な開拓者精神を発揮して、自ら考え、行動できる人材の育成です。 <u>期待する学生像及び入学者選抜の基本方針</u> 東京大学は、このような教育理念に共鳴し、健全な倫理観と責任感を備え、強い意欲を持って学ぼうとする志の高い皆さんを、日本のみならず世界の各地から積極的に受け入れます。東京大学が求めているのは、本学の教育研究環境を積極的に最大限活用して、自ら主体的に学び、各分野で創造的役割を果たす人間へと成長しようとする強い意志を持った学生です。何よりもまず大切なのは、上に述べたような本学の使命や教育理念への共感と、本学における学びに対する旺盛な興味や関心、そして、その学びを通じた人間的成長への強い意欲です。自らの興味・関心を生かして主体的に幅広くさらに専門分野における深い学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。 このような期待する学生像に沿って、各研究科等の特性に応じた入学者選抜を実施します。

人文社会系研究科（修士課程）

教育研究上の目的

人間の思想、歴史、言語、社会に対する真の理解をめざして教育と研究を実践することにより、高度な教養と思考力、表現力を身につけ、人類文化の発展に寄与する人材を養成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院人文社会系研究科は、研究科の「教育研究上の目的」に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に修士の学位を授与します。 ● 人間の思想、歴史、言語、社会に対する真の理解を目ざす過程で身につけた、素養と思考力、表現力を基盤として、個別の課題について実証的で独創的な研究を遂行する能力を持っていることを、提出した修士論文により立証し得たこと。 ● 研究者や高度専門職者として社会に貢献するために必要な能力を修得していること。また、隣接関連領域に対する組織化されたきせぬ関心を持っていること。	東京大学大学院人文社会系研究科は、修士号授与の方針に示された目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。学士課程で身につけた専門的知識と学際的な視野の上に、学生ひとりひとりの特性に沿って、さらに専門的な学修を深める機会が与えられます。 具体的には、①資料・データを専門的に分析する研究手法を身につけるための演習、②より高度な専門知識や研究手法を体系的に学ぶ機会を提供する講義、③学外連携機関との協力に基づき専門的技術を実践的に学ぶインターンシップ教育、④各種外国語による学術的コミュニケーション能力を養うアカデミック・ライティング、⑤個々の学生の課題に応じた修士論文指導等を通じて、研究者や高度専門職者としての基礎能力を確立するための教育が提供されます。 また、個々の学生が設定する問題に対して、多角的なアプローチが可能となるよう、他専攻および他部局が開設するものも視野に含めて、隣接関連領域の演習および講義を、学生個人の研究テーマと有機的に関連づけながら履修するよう指導します。これらの学びを通じて、豊かな人間性を身につけるとともに、人間に関する洞察力を養い、また多角的に人間そのものを理解する力の修得を目指します。 成績評価については、試験やレポートの成績・出席状況などに基づき、各授業において学修達成度を適切に反映する基準を定め、それに基づき行います。	東京大学大学院人文社会系研究科は、思想、歴史、言語、社会にかかわる諸問題について、独創的な観点から論理性を備えた議論を展開し、それぞれの関心に沿って、高度な言語能力を身につけ、実証性に裏打ちされた、堅実な研究を遂行することのできる学生を求めます。入学者選抜においては、以下の点が問われます。 ● 人間の思想、歴史、言語、社会に対する真の理解を目的として、個別の課題について実証的で独創的な研究を遂行するに十分な学力と知識、思考力と表現力を習得していること。 ● 志望する専門分野において、研究課題を自ら発見し、それを解決する方策を構想できる能力を習得していること。 ● 国内外の研究成果を吸収し、将来国際的に活躍できる外国語能力を習得していること。 入学者選抜では、外国語試験、学修を希望する専門分野に関する筆記試験、卒業論文又はこれに代わるもの及び研究計画書等提出書類の審査の後、口述試験を実施します。
各研究専攻における修士号授与の方針 各研究専攻修士課程の学生は、大学院人文社会系研究科が定めるものの他に、下記の要件を満たすことによって修士の学位が授与されます。	各専攻における教育課程編成上の方針 各研究専攻修士課程は、大学院人文社会系研究科が定めるものの他に、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施します。	各専攻における入学者受入の方針 各専攻における入学者選抜においては、人文社会系研究科が定めるものの他に、以下の点が問われます。
（基礎文化研究専攻） ● 基礎文化研究の分野において、研究の対象とする原典・資料を正確に読解・解釈し、またデータを適正に採取・評価して、理論的に正当な理解に基づき、先行研究をも広く視野に含めながら、その成果を表現する能力を修士論文および試問において示すこと。	（基礎文化研究専攻） ● 基礎文化研究の分野において、研究の対象とする原典・資料を厳密に読解・解釈し、またデータを適正に採取・評価することがもっとも重要な基礎をなすため、両者に関する「演習」を開設し、学生が主体的に研究の基礎的手法を修得していくよう重点的に指導します。また、専門的かつ体系的な知識、研究の現時点での水準、研究の新しい潮流などを伝えるための、「特殊研究」を開設します。	（基礎文化研究専攻） ● あらゆる文化活動の基礎にある人間の思考・認識・感情、および言語・表現・文物・制度についての根源的な理解を目的として、個別の課題について実証的で独創的な研究を遂行するに十分な学力と知識、思考力と表現力を身につけていること。
（日本文化研究専攻） ● 国語学、国文学および日本史学の分野において、研究の対象とする原典や史料の厳密な読解をもとに広い視野にたち先行研究を整理して、自己の独自な理解を表現することができる能力を、修士論文および試問において示すこと。	（日本文化研究専攻） ● 国語学、国文学および日本史学の分野において、研究対象とされる原典や史料を正確に読解する能力を身につけるため、「演習」においてテキストの講読を行い、専門的かつ体系的な知識を修得し、先行研究の整理の技術を身につけるため「特殊研究」を開設します。	（日本文化研究専攻） ● 国語学、国文学および日本史学の分野において、研究対象とされる原典や史料を厳密に読解して、その読解をもとに先行研究を整理して、自己の独自な理解を表現することができる能力を有することを、卒業論文（もしくはそれに代わる論文）および試問において示すこと。

(アジア文化研究専攻) アジア諸地域における言語、文学、思想、歴史の分野において、研究の対象とする原典・資料を厳密に読解し、その理解に基づき、独断に陥ることなく、先行研究をも広く視野に含めつつ立論し、明晰に自己の立場を表現する能力を修士論文および試問において示すこと。	(アジア文化研究専攻) - アジア諸地域における人間の諸活動を、所属する専門分野で言語、文学、思想、歴史について、それぞれに開講する「演習」・「特殊研究」などの授業を通じて教授し、学生が専門的かつ体系的な知識を身につけることを目標とします。 - 上記目標を実現するには、原典・資料を厳密に読解できる学力がもっとも重要な基礎をなすため、少人数形式での授業を重視します。あわせて、先行研究の蓄積や研究の新潮流を紹介することにより、学生がみずからの課題を定めて自発的・自律的に研究が遂行できるように指導します。	(アジア文化研究専攻) アジア諸地域における思想・宗教、言語・文学、政治・経済・社会の多様な様相と複雑な歴史展開について、また、アジアに起源を有する諸文化の伝播・交流・変容の諸相について、人類の諸文化や世界の諸課題を視野に入れながら、研究課題を自ら発見し、根元的、多元的な視座から考察するとともに、堅実な研究を遂行するに十分な学力と知識、思考力と表現力を習得していること。
(欧米系文化研究専攻) 欧米系の言語・文学・歴史の分野において、研究の対象とする原典・資料を厳密に読解し、あるいは言語データそのものを精密に分析し、その理解に基づき、独断に陥ることなく、先行研究をも広く視野に含めつつ立論し、明晰に自己の立場を表現する能力を修士論文および試問において示すこと。	(欧米系文化研究専攻) 欧米系の言語、文学、歴史の分野において、研究の対象とする原典・資料・言語データを厳密に読解・分析することがもっとも重要な基礎をなすため、正確な読みと分析、研ぎすまされた資料批判精神を培うべく「演習」を開設し、学生が主体的に資料・データの読解・分析にとり組めるよう重点的に指導します。また、専門的かつ体系的な知識、研究の現時点での水準、研究の新しい潮流などを伝えるための、「特殊研究」を開設します。	(欧米系文化研究専攻) 人類の歴史に多大な影響をおよぼしてきた欧米諸地域の思想・文学・歴史について、原典・史資料を緻密かつ正確に読み解き、研究課題を自ら発見し、さらに高度な研究成果を発信するに十分な学力と知識、思考力と表現力を習得していること。
(社会文化研究専攻) 人間と人間の相互作用から生じる諸現象を研究対象として、独自の問題を設定し、調査、実験、観察、資料分析等の方法を身につけ、理論的・実証的に論考を展開しうる専門的な能力と幅広い教養を獲得していることを、修士論文ならびに試問において示すこと。	(社会文化研究専攻) - 社会心理学と社会学の分野において、各研究分野の研究手法と理論の基礎を修得することを目指します。学生自らの研究関心を具体的な論文テーマに発展させるために、研究の問いの立て方、その問いに適合する研究対象を適切な方法に基づいて分析できる能力を修得することを目標として、教育課程を編成します。 - 学生自らが主体的に問題意識を絞り込み、具体的に修士論文執筆へとつなげることができるように、主指導教員や副指導教員からの個別指導と演習、論文指導の一環として研究室レベルの定期的な報告会を開催します。	(社会文化研究専攻) - 人間の社会的な行動に対する真の理解、あるいは、人間の行為、相互関係、集団、制度、全体社会の状態ならびに動態への透徹した理解を目的として、個別の課題について実証的で独創的な研究を遂行するに十分な学力と知識、思考力と表現力を習得していること。 - 文理の壁を超え、他学問に対する幅広い興味関心をもちつつ、新しい形の「人間知」を生み出すことに意欲的に取り組む意思をもつこと。
(文化資源学研究専攻) 人間の文化を「かたち」「おと」「ことば」という根源的なレベルから捉え直し、文化資源として分析・評価し、それらの保存・公開・活用にあたっての諸問題・諸制度に関して、基本的な知識と思考力と実践力を獲得していること。	(文化資源学研究専攻) - 既存の文化領域・学問領域にとらわれることなく、人間の文化を「かたち」「おと」「ことば」という根源的なレベルから捉え直し、総合的に理解し、学際的に研究する能力を身につけることを目指します。 - 文化をめぐる現代社会の諸制度に通暁するとともに、その歴史や成立の仕組みについても深く理解し、実践力を養い、将来を展望する能力を得られるようにします。 - 働きながら学ぶ社会人学生がさらに高度な専門的知識と能力を身につけることを支援します。	(文化資源学研究専攻) 形態資料や文字資料などの文化資料を、文化資源として分析・評価し、またそれらを保存・公開・活用するにあたっての諸問題に関して、自ら研究課題を発見し、研究を遂行するに十分な学力、知識、思考力および表現力を習得していること。
(韓国朝鮮文化研究専攻) 韓国朝鮮および周辺地域の文化に対して広範かつ確に資料を収集して分析し新たな知見を得るとともに、それを韓国朝鮮文化の認識と理解に資するべく専門的かつ体系的に立論できること。	(韓国朝鮮文化研究専攻) - 韓国朝鮮および周辺地域の歴史、思想、言語、文化、社会等の諸分野について、それぞれの方法論を複合的に用いて深くかつ幅広く学び、専門的で体系的な知識を身につけることを目標とします。そのために専門講義のほか、分野を横断する学複合的な教育をめざす総論講義を設け、韓国朝鮮を通時的あるいは共時的観点から把握する基礎能力を養います。 - 韓国朝鮮語を共通の研究言語とし運用能力を高め、現地調査や資料分析および現地研究者とのコミュニケーションがとれるようにします。	(韓国朝鮮文化研究専攻) - 韓国朝鮮および周辺地域の歴史・思想・言語・文学・社会などに対する幅広い関心と基礎知識を持ち、そうした韓国朝鮮文化の諸側面を認識し理解するうえで必要な基礎的方法と専門的かつ体系的な研究を遂行できる能力とを習得していること。 - 韓国朝鮮および周辺地域の文化を研究するうえで必要な外国語能力を習得していること。

人文社会系研究科（博士課程）

教育研究上の目的

人間の思想、歴史、言語、社会に対する真の理解をめざして教育と研究を実践することにより、高度な教養と思考力、表現力を身につけ、人類文化の発展に寄与する人材を養成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院人文社会系研究科は、研究科の「教育研究上の目的」に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与します。 ● 人間の思想、歴史、言語、社会に対する真の理解をめざす過程で身につけた、高度な素養と思考力、表現力を基盤として、課題を自ら発見し、実証的かつ優れて独創的な研究を独立して遂行する能力を修得していることを、提出した博士論文により立証し得たこと。 ● 自立した研究者として社会およびそれぞれの研究分野の発展に貢献し得る資質を涵養していること。 ● 博士論文によって得られた学術的な知見が、国内外の学術分野において新たな貢献となりうるものであること。	東京大学大学院人文社会系研究科は、博士号授与の方針に示された目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。修士課程で身につけた高度な専門的知識の上に、学生ひとりひとりの特性に沿って、自立した研究者として社会に貢献するための学修の機会が与えられます。 具体的には、①資料・データをより高度に専門的に分析する研究手法を身につけるための演習、②より高度な専門知識や研究手法を体系的に学ぶ機会を提供する講義、③学外連携機関との協力に基づき専門的技術を実践的に学ぶインターンシップ教育、④世界の研究者と緊密に連携しつつ研究活動を展開するコミュニケーション能力を養うための各種言語によるアカデミック・ライティング、⑤個々の学生の課題に応じた博士論文指導等を通じて、学生が自ら定めた研究課題について、実証的で独創的であるとともに、それぞれの研究分野の発展に寄与する論考をまとめるための教育が提供されます。 成績評価については、試験やレポートの成績・出席状況などに基づき、各授業において学修達成度を適切に反映する基準を定め、それに基づき行います。	東京大学大学院人文社会系研究科は、思想、歴史、言語、社会にかかわる諸問題について、独創的な観点から論理性を備えた議論を展開し、それぞれの関心に沿って、高度な言語能力を身につけ、実証性に裏打ちされた、説得力のある研究成果を生み出すことのできる学生を求めます。入学者選抜においては、以下の点が問われます。 ● 人間の思想、歴史、言語、社会に対する真の理解を目的として、系統立てられた課題について実証的で独創的な研究を遂行するための高度な専門的知識、柔軟な思考力と幅広い表現力を習得していること。 ● 志望する専門分野において、学術の発展に繋がり得る研究課題を自ら発見し、それを解決できる研究能力を習得していること。 ● 自らの研究成果を国内外に向けて発信し、最先端の学術成果を共有するための外国語能力を習得していること。 入学者選抜では、修士の学位論文又はこれに代わるもの及び研究計画書等提出書類の審査、学修を希望する専門分野が課す筆記試験を行った後、口述試験を実施します。
各研究専攻における博士号授与の方針 各研究専攻博士課程の学生は、大学院人文社会系研究科が定めるものの他に、下記の要件を満たすことによって博士の学位が授与されます。	各専攻における教育課程編成上の方針 各研究専攻博士課程は、大学院人文社会系研究科が定めるものの他に、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施します。	各専攻における入学者受入の方針 各専攻における入学者選抜においては、人文社会系研究科が定めるものの他に、以下の点が問われます。
（基礎文化研究専攻） ● 基礎文化研究の分野において、研究の対象とする原典・資料を精確に読解・解釈し、またデータを適正に採取・評価して、研究史全体の咀嚼を経て、博士論文に関するかぎりでの先行研究を網羅し、かつ関連領域への十分な配視を踏まえた上で、その成果を表現する能力を博士論文および試問において示すこと。	（基礎文化研究専攻） ● 基礎文化研究の分野において、研究の対象とする原典・資料を正確に読解・理解し、またデータを適正に採取・評価することがもつとも重要な基礎をなすため、両者に関する「演習」を開設し、学生が主体的に研究の基礎的手法を修得していくよう重点的に指導することと並んで、演習に際して指導的役割を担わせることで、将来各分野の研究指導者たりうる資質を養います。また、専門的かつ体系的な知識、研究の現時点での水準、研究の新しい潮流などを伝えるための、「特殊研究」を開設します。 ● 博士論文についての中間報告を、定期的に求めるとともに、準備中の草稿の論点について指導教員との間で双方向的な批判・検討を行うとともに、その研究成果の一部については、国内外の学会において公表していくよう指導します。	（基礎文化研究専攻） ● あらゆる文化活動の基礎にある人間の思考・認識・感情、および言語・表現・文物・制度についての根源的な理解を目的として、系統立てられた課題について、実証的で独創的な研究を遂行するための高度な専門知識、柔軟な思考力と幅広い表現力を身につけていること。
（日本文化研究専攻） ● 国語学、国文学および日本史学の分野において、研究の対象とする原典や史料を厳密に読解して、その読解をもとに広い視野にたち歴大な研究史を整理咀嚼したうえで、自己の独自の論を構築することができる能力を、博士論文および試問において示すこと。	（日本文化研究専攻） ● 国語学、国文学および日本史学の分野において、研究対象とされる原典や史料を正確に読解する能力を身につけるため、「演習」においてテキストの講読を行い、専門的かつ体系的な知識を修得し、研究史整理の能力を身につけるため「特殊研究」を開設します。 ● 博士論文作成のための中間報告を求め、研究成果については海外も含めて学会での発表を指導します。	（日本文化研究専攻） ● 国語学、国文学および日本史学の分野において、研究対象とされる原典や史料を厳密に読解して、その読解をもとに広い視野にたち研究史を整理咀嚼したうえで、自己の独自の論を構築することができる能力を有することを、修士論文（もしくはそれに代わる論文）および試問において示すこと。

(アジア文化研究専攻) ● アジア諸地域における言語・文学・思想・歴史の分野において、研究の対象とする原典・資料を厳密に読解し、その理解に基づき、先行研究を可能なかぎり博搜した上で立論し、自己を相対化しつつ、理路整然と明晰に自己の立場を表現する能力を博士論文および試問において示すこと。	(アジア文化研究専攻) ● アジア諸地域における人間の諸活動を、所属する専門分野で言語、文学、思想、歴史についてそれぞれに開講する演習や特殊研究などの授業を通じて教授し、学生が専門的かつ体系的な知識を身につけるように指導することを目標とします。 ● 上記目標を実現するには、原典・資料を厳密に読解できる学力がもっとも重要な基礎をなすため、少人数形式での授業を重視します。あわせて、先行研究の蓄積や研究の新潮流を紹介することにより、学生がみずからの課題を定めて自発的・自律的に研究が遂行できるように指導します。 ● 博士学位申請論文作成作業の進捗状況について、中間報告を定期的に求めるとともに、準備中の草稿について踏み込んだ検討を行ないます。 ● その過程で、学術的に一定水準に達していると判断される研究成果を、国内・国外で開催される学会・研究会等で口頭報告したり、学術誌等に投稿したりすることによって、公表するよう指導していきます。その際、日本語のみならず、研究対象とする分野で学術的に用いられている言語や英語による発表を積極的に推奨します。外国語による学術論文執筆能力を修得するよう、適宜、アカデミック・ライティングを履修するよう指導します。	(アジア文化研究専攻) ● アジア諸地域における思想・宗教、言語・文学、政治・経済・社会の多様な様相と複雑な歴史展開について、また、アジアに起源を有する諸文化の伝播・交流・変容の諸相について、人類の諸文化や世界の諸課題を視野に入れながら、研究課題を自ら発見し、根元的、多元的な視座から考察するとともに、すぐれた成果をともなう研究を遂行するに十分な学力と知識、思考力と表現力を習得していること。
(欧米系文化研究専攻) ● 欧米系の言語・文学・歴史の分野において、研究の対象とする原典・資料を厳密に読解し、あるいは言語データそのものを精密に分析し、その理解に基づき、先行研究を可能なかぎり博搜しつつ立論し研究史の中に自らを位置づけながら、理路整然と明晰に自己の立場を表現する能力を博士論文および試問において示すこと。	(欧米系文化研究専攻) ● 欧米系の言語、文学、歴史の分野において、研究の対象とされた原典・資料・言語データを厳密に読解・分析することがもっとも重要な基礎をなすため、正確な読みと分析、研ぎすまされた資料批判精神を培うべく「演習」を開設し、学生が主体的に資料・データの読解・分析にとり組むよう、引き続き重点的に指導します。また、専門的かつ体系的な知識、研究の現時点での水準、研究の新しい潮流などを伝えるための、「特殊研究」を開設します。 ● 博士論文についての中間報告を、定期的に求めるとともに、準備中の草稿について踏み込んだ検討を行ないます。途中の段階であっても、すでに十分まとり、国内外の学会への貢献となりうるものについては、公表に向けて指導します。	(欧米系文化研究専攻) ● 人類の歴史に多大な影響をおよぼしてきた欧米諸地域の思想・文学・歴史について、原典・史資料を緻密かつ正確に読み解き、研究課題を自ら発見し、さらに国際的な水準に立った専門的研究活動を行うに十分な学力と知識、思考力と表現力を習得していること。
(社会文化研究専攻) ● 人間と人間の相互作用から生じる諸現象を研究対象として、独自の問題を設定し、調査、実験、観察、資料分析等の学術的な方法に立脚した、理論的・実証的な論考をまとめる専門的な能力と高度な教養を博士論文ならびに試問において示すこと。	(社会文化研究専攻) ● 社会心理学と社会学の分野において、各研究分野における既存の研究方法与理論に立脚しつつ、学生自らの問題関心を発展させた独自の成果を博士論文として執筆できるように、個別指導ならびに研究室レベルでの研究報告会を通して、論文執筆を指導・支援します。 ● 国内外の学会報告、論文投稿を促進し、将来の研究を含むキャリアの設計を学生自ら早期に自覚し、各専門分野での高度人材としてキャリア形成できるよう指導・支援します。	(社会文化研究専攻) ● 人間の社会的な行動に対する真の理解、あるいは、人間の行為、相互関係、集団、制度、全体社会の状態ならびに動態への透徹した理解を目的として、系統立てられた課題について実証的で独創的な研究を遂行するための高度な専門的知識、高い水準の思考力と学術的な論証力、実証力を習得していること。 ● 文理の壁を超え、他学問に対する幅広い興味関心をもちつつ、新しい形の「人間知」を生み出すことに意欲的に取り組む意思ならびに知的な視野をもつこと。
(文化資源学研究専攻) ● 人間の文化を「かたち」「おと」「ことば」という根源的なレベルから捉え直し、文化資源として分析・評価し、それらの保存・公開・活用にあたっての諸問題・諸制度に関して、より高度な知識と思考力と実践力を獲得していること。	(文化資源学研究専攻) ● 既存の文化領域や学問領域にとらわれることなく、人間の文化を「かたち」「おと」「ことば」という根源的なレベルから捉え直し、総合的に理解し、学際的に研究する能力を身につけることを目指します。 ● 文化をめぐる現代社会の諸制度に通暁するとともに、その歴史や成立の仕組みについても深く理解し、実践力を養い、将来を展望する能力を得られるようにします。 ● 働きながら学ぶ社会人学生がさらに高度な専門的知識と能力を身につけることを支援します。	(文化資源学研究専攻) ● 形態資料や文字資料などの文化資料を、文化資源として分析・評価し、またそれらを保存・公開・活用するにあたっての諸問題に関して、学術の発展に繋がり得る研究課題を自ら発見し、自らの研究成果を国内外に向けて発信するに十分な学力と知識、思考力と表現力を習得していること。
(韓国朝鮮文化研究専攻) ● 韓国朝鮮および周辺地域の文化に対して具体的な課題をみずから選択し、優れた分析と立論を行い独創的な知見を得るとともに、独立した研究者としての能力と先進性をもっていること。	(韓国朝鮮文化研究専攻) ● 韓国朝鮮および周辺地域の歴史、思想、言語、文化、社会といった諸分野について、それぞれの方法論を複合的に用いて深くかつ幅広く探求し、高度に専門的で体系的な知識を身につけることを目標とします。そのために専門講義のほか、分野を横断する学複合的な教育をめざす総論講義を設け、韓国朝鮮を通時的あるいは共時的観点から実証的に把握する優れた能力を養います。	(韓国朝鮮文化研究専攻) ● 韓国朝鮮および周辺地域の歴史・思想・言語・文学・社会などに対する広範な専門的知識を持ち、通時的あるいは共時的観点から人文・社会系諸分野の方法を駆使しつつ、独立した研究者として洞察力に満ちた先進性のある独創的研究を遂行できる能力を習得していること。 ● 韓国朝鮮および周辺地域の文化を研究し、その成果を国際的に発信するのに必要な外国語能力を習得していること。

教育学研究科（修士課程）

教育研究上の目的

人間と教育とのかかわり、社会における教育の構造と機能、心身の発達と教育、等の分野において卓越した分析・研究を行う能力を形成するとともに、教育の実践に高度の専門的知見と能力をもって貢献する人材を養成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院教育学研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に修士（教育学）の学位を授与します。 ● 教育学の各専攻領域に関する高度の専門的知識を獲得している。 ● 解決が必要とされる研究課題を自ら発見し、その研究を計画・遂行・報告する高度の能力をもっている。 ● 高い倫理意識と社会的責任感をもち、指導的人材となる自覚をもっている。	東京大学大学院教育学研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。 ● 高度の専門的知識を獲得させるために、総合教育科学専攻においては基本研究と特殊研究、学校教育高度化専攻においては理論研究と実践研究を組み合わせた教育課程とする。 ● 高度の研究能力と高い研究倫理を育てるために、入学初年度から論文指導を計画的に行う。 ● 学修成果の評価にあたっては、本研究科で定める成績評価基準に基づき、各科目のシラバスに示す成績評価方法（試験又はレポート等）に従って厳格に行う。 ● 所定の単位を修得し、修士論文の審査および最終試験に合格することが修士課程修了の要件である。論文審査は、コース教員による合議および研究科教育会議での審議により行う。 ● 教育学を専門とする研究科にふさわしい高度の教育を実現するため、教育課程、教育方法、成績・論文評価の方法等の改善に継続的に努力する。	1. 東京大学大学院教育学研究科は、人間と教育とのかかわり、社会における教育の構造と機能、心身の発達と教育、等の分野において卓越した分析・研究を行う能力を形成するとともに、教育の実践に高度の専門的知見と能力をもって貢献する人材を養成することを目的とし、次のような学生を求める。 ● 教育と人間、教育と学校、教育と社会とのかかわり等、教育の基礎科学あるいは応用実践について研究を推進し、専門的な研究に従事することを目指す人。 ● 教育学やその隣接領域と教育実践とのかけ橋となり、高度な教育を推進しようとする人。 ● 教育にかかわる幅広い関心を有し、社会のさまざまな分野において、高度で専門的な知識を生かした職に就こうとする人。 2. 入学者選抜においては、以下の点が問われる。 ● 教育学の各専門分野に関する知識を習得し、研究を行う能力を有していること。 ● 志望分野において研究課題を自ら設定することができ、研究を遂行する能力を有していること。 ● 研究に必要な語学力の基礎を身につけていること。 ● 入学者の選抜は、第一次試験（筆記試験）、第二次試験（口述試験）および出願書類（研究計画書、出身学校の学業成績等）を総合的に判定して行う。

教育学研究科（博士課程）

教育研究上の目的

人間と教育とのかかわり、社会における教育の構造と機能、心身の発達と教育、等の分野において卓越した分析・研究を行う能力を形成するとともに、教育の実践に高度の専門的知見と能力をもって貢献する人材を養成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院教育学研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に博士（教育学）の学位を授与します。 ● 教育学の各専攻領域に関する卓越した専門的知識を獲得している。 ● 解決が必要とされる研究課題を自ら発見し、自立して独創的な研究を計画・遂行・報告する高度の能力をもっている。 ● 高い倫理意識と社会的責任感をもち、専門領域をリードする指導的人材となる自覚をもっている。	東京大学大学院教育学研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。 ● 自立して独創的な研究を行う高度の研究能力と高い研究倫理を育てるために、入学初年度から論文指導を計画的に行う。 ● 学修成果の評価にあたっては、本研究科で定める成績評価基準に基づき、各科目のシラバスに示す成績評価方法（試験又はレポート等）に従って厳格に行う。 ● 所定の単位を修得し、博士論文の審査および最終試験に合格することが博士課程修了の要件である。論文審査は、主査および副査による審査委員会の報告に基づき、研究科教育会議での審議により行う。 ● 教育学を専門とする研究科にふさわしい高度の教育を実現するため、教育課程、教育方法、成績・論文評価の方法等の改善に継続的に努力する。	1. 東京大学大学院教育学研究科は、人間と教育とのかかわり、社会における教育の構造と機能、心身の発達と教育、等の分野において卓越した分析・研究を行う能力を形成するとともに、教育の実践に高度の専門的知見と能力をもって貢献する人材を養成することを目的とし、次のような学生を求める。 ● 教育と人間、教育と学校、教育と社会とのかかわり等、教育の基礎科学あるいは応用実践について研究を推進し、高度で専門的な研究に従事することを目指す人。 ● 教育学やその隣接領域と教育実践とのかけ橋となり、高度な教育を創発しようとする人。 ● 教育にかかわる高度で専門的な研究能力を有し、社会のさまざまな分野で創造的な実践を展開しようとする人。 2. 入学者選抜においては、以下の点が問われる。 ● 教育学の各専門分野に関する体系的な知識を習得し、独創的な研究を行う能力を有していること。 ● 志望分野において、先駆的な研究課題を自ら設定することができ、明晰な論理に基づいて、研究を遂行する能力を有していること。 ● 研究成果を国内外に向けて発信するための語学力を有していること。 ● 入学者の選抜は、第一次試験（筆記試験）、第二次試験（口述試験）、修士の学位論文（又はこれに代わる論文）および出願書類（研究計画書、出身学校の学業成績等）を総合的に判定して行う。

法学政治学研究科（修士課程）

教育研究上の目的

理論的・歴史的な視野に立って法学・政治学に関する精深な学識を発展させ、専門分野における研究及び応用の能力を培うことにより優れた人材を養成すること、ならびに、国民や社会に貢献する高い志と強い責任感、倫理観を持ち、先端的法分野や国際的法分野でも活躍しうる、優れた法律実務家を養成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院法学政治学研究科総合法政専攻は、専攻の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に修士（法学）の学位を授与します。 ● 法学・政治学の専門分野について、理論的・歴史的視野に立って精深な知識を得ていること。 ● 基礎的な研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を示す学位請求論文を提出し、試験に合格すること。	東京大学大学院法学政治学研究科総合法政専攻は、専攻の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。 ● 実定法、基礎法学、政治の3コースにおいて、演習科目を中心に、多数の授業科目を展開しつつ、法学・政治学に関し、理論、歴史、現状分析、比較、応用のすべての領域にわたり、世界の最先端の研究を反映した最高水準の授業を行う。 ● 法学・政治学に関する日本語・外国語文献の講読や判例分析など、基本的な能力を身につけるため徹底した訓練を受けつつ、学生が各々の資質及び関心に従って自ら高度な研究能力を培い、体系的に研究を推進することができるよう、徹底した個別指導を行う。 ● 国際的に活躍できる研究者や高度専門職業人を養成するため、海外での就学・研究を奨励するほか、世界の一流研究者との不断の交流を図る。 ● 学修成果の評価にあたっては、各科目においてシラバス等で示された成績評価方法により、研究科で定めた成績評価基準に従って透明で厳格な成績評価と論文審査を行う。 ● 不断に教育の内容や方法を検証し、教育の質の向上を図る。	【教育研究上の目的】 本研究科総合法政専攻修士課程は、法学・政治学の分野において、理論的・歴史的な視野に立って精深な学識を養い、実務との密接な連携をも念頭に、専門分野における研究及び応用の能力を培うことを目的とする。 【求める学生像】 理論的な視野と歴史的な視野の双方に関心を持ち、比較の視点に立って対象を捉える力を備え、学術的な貢献を行うことのできる者。 【入学者選抜】 入学者選抜においては、志望する専門分野に関する基礎的知識、専門的知識及び外国語能力が問われる。A選抜（一般選抜）及び、B選抜（特別選抜）については、研究計画書、口述試験、出身学校の学業成績、C選抜（外国人特別選抜）については、研究計画書、口述試験、出身学校の学業成績、日本語の学力、D選抜については、研究計画書、口述試験、出身学校の学業成績、実務上の経験及び能力に関する推薦状について行う。なお、いずれも小論文、外国語の能力を証明する書類（A、B、C選抜は加えて推薦状）の提出をすることもできる。その場合、提出された小論文等も審査の資料となる。口述試験（外国語の能力を確認するための試問を行うこともあり得る）は自己の専門分野としようとする科目を中心に行われ、上記の各入学者選抜において、学生像に合致するかが総合的に判定される。

法学政治学研究科（博士課程）

教育研究上の目的

理論的・歴史的な視野に立って法学・政治学に関する精深な学識を発展させ、専門分野における研究及び応用の能力を培うことにより優れた人材を養成すること、ならびに、国民や社会に貢献する高い志と強い責任感、倫理観を持ち、先端的な法分野や国際的な法分野でも活躍しうる、優れた法律実務家を養成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院法学政治学研究科総合法政専攻は、専攻の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に博士（法学）の学位を授与します。 ● 法学・政治学の専門分野について、理論的・歴史的視野に立って精深な知識を得ていること。 ● 研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を示す学位請求論文を提出し、試験に合格すること。	東京大学大学院法学政治学研究科総合法政専攻は、専攻の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。 ● 実定法、基礎法学、政治の3コースにおいて、演習科目を中心に、多数の授業科目を展開しつつ、法学・政治学に関し、理論、歴史、現状分析、比較、応用のすべての領域にわたり、世界の最先端の研究を反映した最高水準の授業を行う。 ● 論文テーマや文献の選択、精確かつ説得的な議論の展開の仕方等について、指導教員による一对一の、厳格かつ丁寧な指導を受けつつ、独立した研究者としての第一歩を踏み出すべく、学生が各々の資質及び関心に従って自ら高度な研究能力を培い、体系的に研究を推進することができるよう、徹底した個別指導を行う。 ● 国際的に活躍できる研究者や高度専門職業人を養成するため、海外での就学・研究を奨励するほか、世界の一流研究者との不断の交流を図る。 ● 学修成果の評価にあたっては、各科目においてシラバス等で示された成績評価方法により、研究科で定めた成績評価基準に従って透明で厳格な成績評価と論文審査を行う。 ● 不断に教育の内容や方法を検証し、教育の質の向上を図る。	【教育研究上の目的】 本研究科総合法政専攻博士課程は、法学・政治学の分野において、理論的・歴史的な視野に立って精深な学識を養い、専門分野における独自かつ高度な研究及び応用の能力を培うことを目的とする。 【求める学生像】 理論的な視野と歴史的な視野の双方に関心を持ち、比較の視点に立って対象を捉える力を備え、高度な学術的な貢献を行うことができる者。 【入学者選抜】 入学者選抜においては、志望する専門分野に関する高度な専門的知識及び外国語能力が問われる。A選抜（一般選抜）については、修士の学位論文又はこれに代わるものの審査、出身学校の学業成績及び口述試験（外国語の能力を確認するための試問を行うこともあり得る）により、B選抜（職業人特別選抜）については、修士の学位論文又はこれに代わるものの審査、出身学校の学業成績、研究計画書、実務上の経験及び能力に関する推薦状及び口述試験（外国語の能力を確認するための試問を行うこともあり得る）によって行われ、上記の各入学者選抜において、学生像に合致するかが総合的に判定される。

教育研究上の目的
理論的・歴史的な視野に立つて法学・政治学に関する精深な学識を発展させ、専門分野における研究及び応用の能力を培うことにより優れた人材を養成すること、ならびに、国民や社会に貢献する高い志と強い責任感、倫理観を持ち、先端的法分野や国際的法分野でも活躍しうる、優れた法律実務家を養成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻は、専攻の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に法務博士の学位を授与します。 ● 基礎的な法分野のみならず、先端的法分野や国際的法分野についても、精深にして広範な知識を有すること。 ● 人間と社会に関する広い視野と深い洞察に基づいて、現代社会において提起される諸問題の解決のために、その法的知識を応用する能力を有すること。 ● 法律家としての責任・倫理に関して豊かな識見を身につけていること。	東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻は、専攻の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。 ● 1年次及び2年次に法律基本科目を中心とする精選された授業科目を配置し、これらを集中的にかつ掘り下げて学習するプロセスを通じて、学位授与方針に定める知識・能力・識見を修得するための基幹となる能力を確実に身につけさせる。 ● 1年次以降に展開する法律基本科目及び2年次以降に展開する法律実務基礎科目から基礎法学・隣接科目及び展開・先端科目に至る科目をバランス良く体系的に配置することにより、基礎的な法分野のみならず、先端的法分野や国際的法分野についても、精深にして広範な知識を獲得させる。 ● 基礎法学・隣接科目の一部を必修科目に組み込み、選択必修科目または選択科目として多彩な基礎法学・隣接科目、展開・先端科目を配置するとともに、学生の視野を広げるための学際的・応用的な教育及び最新の研究成果を反映した理論的な教育を重視することにより、人間と社会に関する広い視野と深い洞察に基づいて、現代社会において提起される諸問題の解決のために、その法的知識を応用することができる能力を養う。 ● 法曹倫理、模擬裁判等を含む法律実務基礎科目を必修科目または選択必修科目として配置するとともに、その他の科目においても双方向的な授業や実践的内容を盛り込み、学生の自主的かつ能動的な学修を奨励することにより、法律家としての責任・倫理に関する豊かな識見と、それに基づき高度な法実務を担うことができる能力を養う。 ● 以上の教育課程を通じて、学修成果の評価にあたっては、原則として筆記試験及び平常点によるものとしつつ、各科目の特性に応じてシラバス等で明示された成績評価方法により、研究科で定めた成績評価基準に従って当該科目についての学習達成度を評価し、すべての授業において透明で厳格な成績評価を行う。 ● 以上の教育課程について、不断に教育の内容や方法を検証し、教育の質の向上を図る。	【教育研究上の目的】 本研究科法曹養成専攻専門職学位課程（法科大学院）は、社会に貢献する高い志と強い責任感・倫理感を持ち、先端的法分野や国際的法分野でも活躍しうる、優れた法律実務家を養成することを目的とする。 【求める学生像】 社会に貢献しようという高い志をもって法律の学習に取り組み、法の体系・理論・運用を理解したうえで、法的問題を解決するために自らの思考を発展させることのできる者。 【入学者選抜】 入学者選抜においては、法律家として活動するための基礎となる問題発見能力、論理的思考力、文章作成能力、語学力等が問われる。法学既修者については、これに加えて、法律基本科目につき、法科大学院における発展的な学修に対応できるだけの知識と理解を有しているかが問われる。 第1段階選抜では外国語の能力及び学業成績等を総合的に審査し、第2段階選抜では入学願書、外国語の能力、学業成績及び筆記試験（法学未修者は総合問題、法学既修者は法律科目問題）の成績を総合的に審査することによって、問題発見能力、論理的思考力、文章作成能力、語学力等を評価し、上記の学生像に合致するかが総合的に判定される。 審査に際しては、入学願書、学業成績及び筆記試験を通じて、主として問題発見能力、論理的思考力、文章作成能力を評価するとともに、法学既修者の場合には、法律基本科目につき、法科大学院における発展的な学修に対応できるだけの知識と理解を有しているかを評価する。外国語の能力は、主として語学力の評価に用いる。 法曹コース（認定連携法曹基礎課程）修了見込みの者は、法学既修者の法曹コース特別選抜枠に出願することができ、法曹コース特別選抜枠の選抜では、上記の審査方法のうち、とりわけ法曹コースの学業成績等を重視する。法曹コース特別選抜枠の出願者で第1段階選抜に合格した者のうち、東京大学法学部の法科大学院進学プログラムの修了見込みであって、学業成績等が優秀であり、かつ、入学願書等の審査により、上記学生像に合致すると判定される者は、筆記試験を含む第2段階選抜を免除して、法曹コース特別選抜枠で合格とする。法曹コース特別選抜枠の志願者は、第2段階選抜を免除して合格とする場合を除き、既修者の一般の選抜方法の対象としても可否を判定し、一般選抜としては合格せず、法曹コース特別選抜枠としてのみ合格した者については、法曹コースの修了が法科大学院入学の要件となる。

経済学研究科（修士課程）

教育研究上の目的

経済学・経営学での多様な分野において、広く豊かな学識の養成を基盤として、国際的な先端性をもつ学問研究に従事する研究者を育成するとともに、高度な専門知識を国際的視野のもとに実践的に駆使する人材を育成することを目的とする。

学位授与方針

東京大学大学院経済学研究科は、国際的な視野に立って実業界・官界・学界などで活躍する専門人材を養成するため、本研究科の修士課程に所定の期間在学し、経済学・経営学の多様な分野に関する体系的な講義や個別研究を行う演習を履修し、かつ、所定の単位を修得し、修士論文を提出して合格した学生に、修士（経済学）、修士（経営学）の学位を授与する。その学位の取得には、本研究科の教育研究上の目的に基づき、次に掲げる目標を達成することが求められる。

- 経済学、統計学、地域研究、経済史（以上経済学）、経営学、数量ファイナンス（以上経営学）のいずれかの学問領域における基礎的な概念に加えて、理論、実証成果、実践的含意等々に関する専門的な知識を修得すること。
- 経済学・経営学のいずれかの学問領域において、より進んだ理論的、実践的かつ総合的な洞察力と応用力を有すること。
- 学位取得後に国際的な視野に立って国内外の実業界・官界・学界などで活躍できる優れた人材と認められること。

教育課程の編成・実施方針

東京大学大学院経済学研究科は、経済学と経営学のいずれかの学問領域において、理論的、実践的かつ総合的な洞察力あるいは応用力を持ち、国際的な視野に立って活躍できる人材を養成するという目標を高度な水準で実現するため、経済専攻とマネジメント専攻の2専攻を設置し、修士課程において、以下の方針に従って教育課程を編成・実施する。

- 入学後、経済専攻は経済学、統計学、地域研究、経済史の4コースに、マネジメント専攻は経営学、数量ファイナンスの2コースに分かれて、各学問領域における基礎的な概念に加えて、より進んだ理論的、実践的含意等々を習得するために、授業、演習、ワークショップなどを履修させる
- 修士課程2年次を中心に、各学生は独自の問題意識、文献調査、理論展開、実証分析などに基づく修士論文の作成を集中的に行わせ、これに対し各コースの教員は、学生の論文指導を行う。
- 東京大学経済学部の学生が学部段階で取得した大学院科目の単位を活用し、年限短縮により1年間で修士号を取得することを可能にする「卓越プログラム」を設置し、意欲と能力のある学部学生が計5年間で修士号を取得できる道を開く。
- 大学院教育の国際化の流れに対応する取り組みの一環として、英語で授業や論文指導を行う「経済学高度国際化プログラム（UT I P E）」を設置する。これにより、日本語能力が不十分な外国人学生でも、東京大学で高度な経済学の知識を習得して修士課程を修了することを可能とし、学修環境の国際化を推進する。
- 以上の教育課程において、学修成果の評価については、本学で定める成績評価基準並びに事前にシラバス等で提示する科目ごとの成績評価方法（試験やレポートの成績、出席状況、授業への貢献度等）に基づき、厳格な成績評価を行うとともに、修士論文に関する研究能力の審査や試験を厳格に行う。

以上の方針に基づく教育課程の編成・実施によって、本研究科の修士課程は、学術研究の発表の場においても、実業界や官界の重要な意思決定の場においても、大きな国際舞台でも身近な地域社会でも、自らの識見と信条に従って、先端的かつ独自の理論や意見を発信し、必要に応じて実行に移し、時に指導力を発揮して、社会に貢献できるような人材を育成していきたいと考える。

入学受入方針

求める学生像

- 経済学、経営学および近接領域の視野から、経済・社会で起きている現象を的確にとらえる分析力、論理的で明晰な思考力、などを身につけることができる人。
- 経済・社会における新しい課題に挑戦し、既成の概念にとらわれない新鮮な着想力で未踏の道を切り拓いていける人。
- 学部教育で培った基礎知識をもとに、大学院で専門的な知識と研究能力を高めるとともに幅広い総合性を備えて、将来的に内外の諸分野の第一線で活躍を目指す人。

入学者の選抜においては、以下の点が問われる。

- 志望コースに関して学部上級レベルの専門知識を修得していること。
- 国際的な場でも活動しうるだけの外国語能力の基礎を具備していること。
- その他、志望コースで必要と考えられる能力をもっていること。

入学者選抜では、学修を希望する専門分野に関する筆記試験を実施し、出身学校の学業成績を含む提出書類の審査によって、英語力、数学的能力、分析的思考力および専門分野について論述する能力も含めて選抜する。前述の観点に加え、口述試験により研究を推進・展開できる能力および論理的に説明できる能力の評価も加えて選抜する。

経済学研究科（博士課程）

教育研究上の目的

経済学・経営学での多様な分野において、広く豊かな学識の養成を基盤として、国際的な先端性をもつ学問研究に従事する研究者を育成するとともに、高度な専門知識を国際的視野のもとに実践的に駆使する人材を育成することを目的とする。

学位授与方針

東京大学大学院経済学研究科は、国際的な視野に立って実業界・官界・学界などで活躍する高度な専門人材を養成するため、本研究科の博士課程に所定の期間在学し、所定の単位を修得し、博士論文を提出して合格し、専門分野における自立した研究者として研究活動を行っていく能力を有していると認められる学生に、博士（経済学）、博士（経営学）の学位を授与する。その学位の取得には、本研究科の教育研究上の目的に基づき、次に掲げる目標を達成することが求められる。

- 経済学、統計学、地域研究、経済史（以上経済学）、経営学、数量ファイナンス（以上経営学）のいずれかの学問領域において、先端的な理論研究や実証研究を行う高度な専門知識と研究遂行能力を有すること。
- 各自の専門領域で新しい知見を深め、国内外の学界でその貢献が高く評価される高度な専門人材として活躍できると認められること。

教育課程の編成・実施方針

東京大学大学院経済学研究科は、経済学と経営学のいずれかの学問領域において、理論的、実践的かつ総合的な洞察力、独創力、あるいは応用力を持ち、国際的な視野に立って活躍できる高度な専門人材を養成するという目標を高度な水準で実現するため、経済専攻とマネジメント専攻の2専攻を設置し、博士課程において、以下の方針に従って教育課程を編成・実施する。

- 指導教員等の論文指導や、他の博士課程学生や研究者との切磋琢磨と互助を通じて、各学問領域の先端的な研究に自らチャレンジし、さらに高度な理論的・実証的研究を志し、主に高度な学術研究者や経済・経営専門職を目指す人材を育成する。
- 博士課程の学生は、所定数の単位の履修および課程博士論文の提出と合格判定をもって同課程を修了する。ただし、博士論文の合格を待たずに単位取得退学を選択し、大学の教職等に就職し、その後に博士論文の提出・合格による博士号取得を目指すことも可能である。
- 大学院教育の国際化の流れに対応する取り組みの一環として、英語で授業や論文指導を行う「経済学高度国際化プログラム（UT I P E）」を設置する。これにより、日本語能力が不十分な外国人学生でも、東京大学で高度な経済学の知識を習得して博士課程を修了することを可能とし、学修環境の国際化を推進する。
- 以上の教育課程において、学修成果の評価については、本学で定める成績評価基準並びに事前にシラバス等で提示する科目ごとの成績評価方法（試験やレポートの成績、出席状況、授業への貢献度等）に基づき、厳格な成績評価を行うとともに、博士論文に基づく研究能力の審査及び試験を厳格に行う。

以上の方針に基づく教育課程の編成・実施によって、本研究科の博士課程は、学術研究の発表の場においても、実業界や官界の重要な意思決定の場においても、大きな国際舞台でも身近な地域社会でも、自らの識見と信条に従って、先端的かつ独自の理論や意見を発信し、必要に応じて実行に移し、時に指導力を発揮して、社会に貢献できるような人材を育成していきたいと考える。

入学者受入方針

求める学生像

- 経済学、統計学、地域研究、経済史（以上、経済専攻）、経営学、数量ファイナンス（以上、マネジメント専攻）のいずれかの学問領域における理論研究や実証研究を行う基礎的能力を有している人。
- 経済学、経営学および近接領域の視野から、経済・社会で起きている現象を的確にとらえる分析力、論理的で明晰な思考力や独創力などを身につけることができる人。
- 経済学、経営学およびその近接領域の学問分野における新しい研究テーマや研究アプローチに挑戦し、既成の概念にとらわれない新鮮な着想力で未踏の道を切り拓いていける人。

入学者の選抜においては以下の点が問われる。

- 志望コースに関する専門知識を修得し、優秀な修士論文もしくはそれに相当する論文を執筆していること。
- 国際的な場でも活動しうるだけの外国語能力を具備していること。

入学者選抜では、研究計画書、修士の学位論文またはこれに代わる論文、出身学校の学業成績、および提出された情報に基づいて書類審査を行った後、口述試験によって選抜する。

総合文化研究科（修士課程）

教育研究上の目的

学際性および国際性を教育・研究の柱として専門分野についての深い理解の上に立った領域横断的研究による知の創成をめざし、確かな教養に支えられた総合的判断力をもって現代の社会と科学技術の様々な課題に取り組む能力をもち、教育・研究の分野のみならず社会の実践的分野においても国際的に指導的役割を果たすことのできる人材を養成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院総合文化研究科修士課程では、学際性・国際性・先端性という基本理念のもと、次に掲げる能力を身につけ、所定の単位を修得し学位論文審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。 ● 確かな教養に支えられた総合的判断力を身につけ、高度で深い専門的知識・技能を修得し、こうした判断力と学識に基づきながら、分野を越えた領域横断的な研究を遂行する能力を持つ。 ● 豊かな国際感覚と高いコミュニケーション能力を身につけ、国際的水準の研究や実践的活動を十分に踏まえながら研究活動を展開する能力を持つ。 ● 先端的な研究成果を優れた学術的貢献として発信する、あるいは、高度に専門的な職業・活動に従事し、その成果を率先して社会的実践に活かす意欲と能力を持つ。 ● 強固な倫理観と責任感を持ち、学術研究、教育あるいは社会の実践的分野において、その高い見識とコミュニケーション能力及び課題解決力を活かしつつ、先導的役割を担い得る積極性と優れた能力を持つ。	東京大学大学院総合文化研究科修士課程では、学位授与方針で示した能力を学生が修得できるよう、以下の方針に基づき、カリキュラムを編成・実施します。 ● 専門分野に関する高度な知識・技能を涵養すると同時に、分野を越えた学際的視野を獲得させるため、各専攻（系・コース）及び教育プログラムにおいて、それぞれの学問的特徴を活かしつつ、体系的かつ領域横断的な履修を可能とするカリキュラムを構成する。 ● 教育プログラムにおいては、人間の安全保障、欧州研究、グローバル共生、国際人材養成、国際環境学、科学技術インテグリティ養成、多文化共生・統合人間学の先端的な研究教育を行い、既存の各専攻（系・コース）との相互交流を促すようなカリキュラムを提供する。 ● 研究室に所属して、あるいは指導教員等のもので、修士論文研究の指導を受け、専門的な知識と論理的思考力とを基盤とする研究の立案・計画能力、専門的内容の発表能力、問題分析能力、問題解決能力を養う。 ● 国際的研究拠点となっている附置研究機構・センターでの活動も含め、国際的水準の先端的研究成果について学ぶ機会を提供するため、英語で学位を取得できるプログラムを設けるとともに、英語による授業を積極的に提供し、国際的コミュニケーション能力を強化する。 ● 研究者養成に加えて、研究成果を積極的に社会に還元できる 21 世紀型市民のエリートの養成にも対応したカリキュラムを提供する。そのため、生命・環境、科学技術・社会、情報・メディア、現代ヨーロッパに関する学際的教育・研究、新たな人文知の開拓などを主旨とする教育プログラムを設け、現代社会の多様な課題に対処できる高度な教養、深い学識を涵養する機会を提供する。 ● 研究遂行に求められる強固な倫理観、指導力、発信力を醸成するとともに、学位の国際通用性を確保する。 ● 各授業において学修達成度を適切に反映する基準を定め、試験やレポートの成績・出席状況などに基づき、厳格に成績を評価する。また、学位論文もしくは特定の課題に基づく研究能力の審査及び最終試験を厳格に実施する。	東京大学大学院総合文化研究科修士課程では、以下の求める学生像及び入学者選抜の基本方針に基づき、入学者の選抜を行います。 求める学生像 ● 志望する専門分野に関する基礎的な知識・研究能力を有すると同時に、自らの専門の相対化を可能とする広い学識と領域横断的な視野を身につけることのできる人。 ● 現実世界の諸問題や学術的課題の解明と、新たな知的価値の創出を意欲的に目指しつつ、研究によって得られた知見を論理的にまとめあげ、国内外に発信できる表現力・語学力を身につけることのできる人。 入学者選抜の基本方針 ● 志望する専門分野に関する十分な知識を身につけているとともに、当該分野と関連する学問全般にわたって幅広い知識や教養を有していること。 ● 単なる知識の量だけでなく、そこから自らが主体的に新たな問題を発見し、知識を獲得しながらその問題を解決する能力、創発的な議論を展開する能力を具えていること。 ● 当該分野に係る資料・文献を読みこなすことができ、将来国際的な場でも活躍し得るだけの語学力の基礎を具えていること。 ● 入学者選抜は、筆記試験、口述試験及び出身学校の学業成績により行われ、文系専攻においては、上記に加え提出論文・研究計画書等の審査を行う。筆記試験では、志望する専門分野の基礎知識、それを踏まえた論理的な思考能力及び外国語の能力の評価を行い、口述試験及び提出論文・研究計画書等の審査では、研究を推進・展開できる能力及び論理的に説明できる能力の評価を行い、入学者を選抜する。

総合文化研究科（博士課程）

教育研究上の目的

学際性および国際性を教育・研究の柱として専門分野についての深い理解の上に立った領域横断的研究による知の創成をめざし、確かな教養に支えられた総合的判断力をもって現代の社会と科学技術の様々な課題に取り組む能力をもち、教育・研究の分野のみならず社会の実践的分野においても国際的に指導的役割を果たすことのできる人材を養成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院総合文化研究科博士課程では、学際性・国際性・先端性という基本理念のもと、次に掲げる能力を身に付け、所定の単位を修得し学位論文審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。 ● 確かな教養に支えられた総合的判断力と高度で深い専門的知識・技能に基づき、分野を越えた領域横断的研究を遂行するとともに、自らの研究を基盤として独創性に満ちた学際的・総合的な知を創成する能力を持つ。 ● 豊かな国際感覚と高いコミュニケーション能力を活用し、国際的水準の研究や実践的活動の最前線に積極的に関与しながら研究活動を展開し得る卓越した能力を持つ。 ● 先端的な学術的活動と研究成果により、当該分野はもとより、より広く人間社会と科学技術の発展に寄与する、あるいは、高度に専門的な職業・活動に主導的に関わり、その成果を率先して社会的実践に活かすことができる強い意欲と秀抜な能力を持つ。 ● 強固な倫理観と責任感を持ち、学術研究、教育あるいは社会の実践的分野において、その高い見識とコミュニケーション能力及び課題解決力を活かしつつ、国内外において指導的役割を担い得る積極性と傑出した能力を持つ。	東京大学大学院総合文化研究科博士課程では、学位授与方針で示した能力を学生が修得できるよう、以下の方針に基づき、カリキュラムを編成・実施します。 ● 専門分野に関する高度な知識・技能を涵養すると同時に、分野を越えた学際的視野を獲得させるため、各専攻（系・コース）及び教育プログラムにおいて、それぞれの学問的特徴を活かしつつ、体系的かつ領域横断的な履修を可能とするカリキュラムを構成する。 ● 教育プログラムにおいては、人間の安全保障、グローバル共生、国際人材養成、国際環境学、科学技術インテグリティ養成、日独共同大学院、英語教育、多文化共生・統合人間学の先端的な研究教育を行い、既存の各専攻（系・コース）との相互交流を促すようなカリキュラムを提供する。 ● 研究室に所属して、あるいは指導教員等のもので、博士論文研究の指導を受け、高度に専門的な知識と論理的思考力とを基盤とする課題設定能力・研究の立案・計画能力、専門的内容の発表能力、問題分析能力、問題解決能力、学術論文の執筆力、創造力を養う。 ● 国際的研究拠点となっている附置研究機構・センターでの活動も含め、国際的水準の先端的研究成果について学ぶ機会を提供するため、英語で学位を取得できるプログラムを設けるとともに、英語による授業を積極的に提供し、国際的コミュニケーション能力を強化する。 ● 研究者養成に加えて、研究成果を積極的に社会に還元できる 21 世紀型市民のエリートの養成にも対応したカリキュラムを提供する。そのため、生命・環境、科学技術・社会、情報・メディア、現代ヨーロッパに関する学際的教育・研究、新たな人文知の開拓などを主旨とする教育プログラムを設け、現代社会の多様な課題に対処できる高度な教養、深い学識を涵養する機会を提供する。 ● 研究遂行に求められる強固な倫理観、指導力、発信力を醸成するとともに、学位の国際通用性を確保する。 ● 各授業において学修達成度を適切に反映する基準を定め、試験やレポートの成績・出席状況などに基づき、厳格に成績を評価する。また、学位論文に基づく研究能力の審査及び最終試験を厳格に実施する。	東京大学大学院総合文化研究科博士課程では、以下の求める学生像及び入学者選抜の基本方針に基づき、入学者の選抜を行います。 求める学生像 ● 志望する専門分野に関する深い知識と高度な研究能力を有すると同時に、広い学識と領域横断的な視野を身につけることのできる人。 ● 自らが専門的研究の一翼を担おうとする使命感を持ち、専門分野で卓越した知を創出することができるとともに、当該研究分野の第一線で活躍することが期待される意欲的な人。 入学者選抜の基本方針 ● 志望する専門分野に関する深い知識を有し、当該分野に高度な学術的寄与ができること。 ● 独創的かつ先駆的な研究課題を自ら設定し、専門分野に関する深い専門的知識のみならず広い学識や領域横断的な視野に基づいて、創発的かつ説得力に富んだ議論を展開する能力を具えていること。 ● 当該分野に係る資料・文献を読みこなすことができ、国内外に研究成果を積極的に発信できる語学力を具えていること。 ● 入学者選抜は、修士の学位論文又はこれに代わるものの審査、出身学校の学業成績及び学力試験により行う。修士の学位論文又はこれに代わるものの審査では、研究を推進・展開できる能力及び論理的に説明できる能力の評価を行い、学力試験では、志望する専門分野の知識、それを踏まえた論理的な思考能力及び外国語の能力の評価を行い、入学者を選抜する。

理学系研究科（修士課程）

教育研究上の目的

自然界の真理の根本的理解に向けて、知を創造し、発展させ、それを継承することを教育研究の不変の目的として定め、次代を担う学究の徒に理学の理念と方法論を教授し、未知の問題に対する解決の知恵と手段を備えた独創性豊かな国際的人材を養成する。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院理学系研究科では物理学、天文学、地球惑星科学、化学、生物科学の5専攻を置き、東京大学理学系研究科憲章の定めに従って世界最高水準の教育を実施し、次に掲げる学修目標に到達し、所定の単位を修得し、学位論文審査及び試験に合格した学生に理学の学位を授与する。 ● 自然界の真理の本質的な理解に向けて、新しい知を創造し、発展・継承することができる。 ● 未知の問題解決のために独創的な研究を着想・遂行する能力をもつ。 ● 国際的な視野と高度なコミュニケーション能力に基づいて、世界水準の研究成果を国内外に向けて発信し、理学の発展に対して貢献できる。 ● 国内外の大学・民間企業・官公庁など社会の諸方面で高い倫理観と責任をもち、先導的な役割を担うことができる。	東京大学大学院理学系研究科は上記学位授与方針を達成する学生を輩出するために、以下の方針に基づいて世界最高水準の教育・研究を追求し、高度で専門的な教育課程を体系的に編成・実施する。 ● 理学における世界水準の教育・研究を実施できる人材を育成する。 ● 講義のみでなく、世界の第一線の研究現場で直接、研究の方法論を学ばせることで自ら創造的な研究を実施し、その成果を発信する高度な研究能力を身につけさせる。 ● セミナーや学会・研究会などに参加する機会を通じて、研究成果を適切に発信し、研究遂行のために必要な情報を収集する能力を身につけさせる。 ● 英語での講義を強化し、学修環境の国際化を推進する。 ● 海外派遣プログラムを実施するとともに、海外の学会・研究集会での研究発表や海外の研究者との研究交流を積極的に推奨し、国際的に活躍できる人材を育成する。 ● インターンシッププログラムを実施することで産業界の要請及び諸研究機関などからの需要に応じた、創意ある研究者を育成する。 ● 研究倫理の講義を通じて高い倫理観をもち、教育・研究に携われる人材を育成する。 ● 学位論文の他、試験やレポートの成績・出席状況などに基づき、各授業において学修達成度を適切に反映する基準を定め、成績評価を行う。	研究教育上の目的 自然界の真理の根源的理解に向けて、知を創造し、発展させ、それを継承することを教育研究の不変の目的として定める。学究の徒に対して理学の理念と方法論を教授することで、高度な専門力、広範な俯瞰力、高い問題解決能力・発信力・国際性を兼ね備えた独創性豊かな人材を養成する。 求める学生像 ● 専門分野における学士相当の基礎学力をもち、自然現象に通底する普遍性をとらえる理学的な思考法、未知の現象の核心に迫る方法論、論理的で明晰な分析力などを習得することに意欲的な人。 ● 新しい課題に対して、既成の概念にとらわれない新鮮な着想力で取り組み、未踏の道を切り拓いていける人。 ● 大学院で獲得した高度な知識と研究能力を礎として、将来的に社会の諸分野で活躍し、人類の持続的発展に貢献できる人。 入学者選抜の基本方針 ● 専門分野における学士相当の基礎学力、論理的な思考力・解析力を有すること。 ● 未知の課題を主体的に解決する資質を有すること。 ● 研究成果を発信するための基本的な語学力とコミュニケーション能力を有すること。 ● 入学者の選抜は、筆記試験、口述試験、出身学校の学業成績により行う。

理学系研究科（博士課程）

教育研究上の目的

自然界の真理の根本的理解に向けて、知を創造し、発展させ、それを継承することを教育研究の不変の目的として定め、次代を担う学究の徒に理学の理念と方法論を教授し、未知の問題に対する解決の知恵と手段を備えた独創性豊かな国際的人材を養成する。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院理学系研究科では物理学、天文学、地球惑星科学、化学、生物科学の5専攻を置き、東京大学理学系研究科憲章の定めに従って世界最高水準の教育を実施し、次に掲げる学修目標に到達し、所定の単位を修得し、学位論文審査及び試験に合格した学生に理学の学位を授与する。 ● 自然界の真理の本質的な理解に向けて、新しい知を創造し、発展・継承することができる。 ● 未知の問題を自ら発掘し、その解決のために独創的な研究を着想・遂行する能力をもつ。 ● 学際的・国際的な視野と高度なコミュニケーション能力に基づいて、世界最高水準の研究成果を国内外に向けて発信し、理学の発展・深化を先導できる。 ● 国内外の大学・民間企業研究所・官公庁など社会の諸方面で高い倫理観と責任をもち、指導的・先導的な役割を担うことができる。	東京大学大学院理学系研究科は上記学位授与方針を達成する学生を輩出するために、以下の方針に基づいて世界最高水準の教育・研究を追求し、高度で専門的な教育課程を体系的に編成・実施する。 ● 理学における世界最高水準の教育・研究を実施できる人材を育成する。 ● 講義のみでなく、世界の第一線の研究現場で直接、研究の方法論を学ばせることで自ら創造的な研究を実施し、その成果を発表する高度な研究能力を身につけさせる。 ● セミナーや学会・研究会などに参加する機会を通じて、研究成果を適切に発信し、研究遂行のために必要な情報を収集する能力を身につけさせる。 ● 英語での講義を強化し、学修環境の国際化を推進する。 ● 海外派遣プログラムを実施するとともに、海外の学会・研究集会での研究発表や海外の研究者との研究交流を積極的に推奨し、国際的に活躍できる人材を育成する。 ● インターンシッププログラムを実施することで産業界の要請及び諸研究機関などからの需要に応じた、創意ある研究者を育成する。 ● 研究倫理の講義を通じて高い倫理観をもち、教育・研究に携われる人材を育成する。 ● 学位論文の他、学術誌や国内外での学会における発表状況などに基づき、学修達成度を適切に反映する基準を定め、成績評価を行う。	研究教育上の目的 自然界の真理の根源的理解に向けて、知を創造し、発展させ、それを継承することを教育研究の不変の目的として定める。学究の徒に対して理学の理念と方法論を教授することで、高度な専門力、広範な俯瞰力、卓越した創造性と国際性、未知の問題を発掘し解決する能力を兼ね備えた、次代を牽引する人材を養成する。 求める学生像 ● 専門分野における修士相当の基礎学力と研究能力をもち、自然現象に通底する普遍性をとらえる理学的な思考法、未知の現象の核心に迫る方法論、論理的で明晰な分析力などを習得することに意欲的な人。 ● 旺盛な知的好奇心に従って主体的に新しい課題を創出し、独創的な発想と卓越した実行力によってこれを解決し、未踏の分野を切り拓いていける人。 ● 大学院で獲得した卓越した専門的知識と研究能力を礎として、将来的に社会の第一線で国際的なリーダーとしての活躍できる人。 入学者選抜の基本方針 ● 専門分野における修士相当の基礎学力、高度な研究能力、論理的な思考力・解析力を有すること。 ● 新しい課題を自ら創出し、これを主体的に解決する資質を有すること。 ● 研究成果を国内外に向けて発信するための基本的な語学力とコミュニケーション能力を有すること。 ● 入学者の選抜は、修士の学位論文又はこれに代わるものの審査、筆記試験（各専攻が指定する）、口述試験及び出身高校の学業成績により行う。

工学系研究科（修士課程）

教育研究上の目的

工学を基盤として未踏分野の開拓や新たな技術革新に果敢に挑戦し、人類社会の持続と発展に貢献するとともに、科学技術に関する体系的な知識と工学的な思考方法を身につけ、多様性への理解と広い視野を持って社会的課題の解決を目指す実行力を持った人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院工学系研究科は、大学院の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に修士の学位を授与する。 ● 専門分野における高度で体系的な知識を有していること。 ● 工学的、論理的な思考力を有し、それを高度に活用する力を有していること。 ● 未知の課題に取り組み、独創性の高い研究を遂行する資質を有していること。 ● 多様なコミュニティとも積極的に交流し、情報交換や討論ができる国際性を有していること。 ● 人類の持続的発展に貢献するために、高い倫理観・責任感を持ち、社会のリーダーとして活躍する素養を有していること。 ● 所定の期間在学して、所定科目、単位を修得し、修士の学位論文審査及び最終試験に合格していること。	東京大学大学院工学系研究科は、学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。 ● 専攻する分野における先端的な内容の専門教育により、高度で体系的な知識を獲得する。 ● 講義、実験・演習、修士論文研究を通じて、論理的思考力を培うとともに、専門分野における課題を発見し、それを解決する能力を養う。 ● 修士論文研究において、未知の課題に取り組んで新しい知を生み出すための努力を通じ、独創的な研究を生み出すための着想力や創造力を養う。 ● 講義や演習を通して、多様なコミュニティとも積極的に交流し、情報交換や討論ができる国際性を養う。 ● 演習・修士論文研究や各種活動を通して、コミュニケーション能力、リーダーシップ、他者と協働する能力を養う。 ● e ラーニング等を活用した科学技術に関する倫理教育を行う。 ● 成績評価と論文審査により、学修成果を評価する。 ● 成績評価は、本学で定める成績評価基準及び科目ごとに明示した評価方法（試験やレポートなど）により適正に行う。 ● 修士の学位論文の評価は、審査の手続きや基準を定めて、提出論文及び複数の教員による口頭審査により厳正に行う。	東京大学大学院工学系研究科では、工学を基盤として未踏分野の開拓や新たな技術革新に果敢に挑戦し、人類社会の持続と発展に貢献するとともに、科学技術に関する体系的な知識と工学的な思考方法を身につけ、多様性への理解と広い視野を持って社会的課題の解決を目指す実行力を持った人材を育成することを教育研究上の目的として定めています。 求める学生像 1) 本研究科が掲げる教育研究上の目的に共感し、強い意欲を持って学ぼうとする人 2) 専攻する分野における十分な基礎知識に加えて、工学的・論理的な思考力を有し、社会的課題の解決に強い意欲を持つ人 3) 基本的なコミュニケーション能力、外国語能力及び健全な倫理観を持ち、多様性を尊重して国際社会に貢献することを目指す人 入学者選抜の方針 求める学生像に基づき、筆記試験、口頭試問を実施し、併せて出身校の学業成績や外国語能力等を含む提出書類等を評価して選抜します。その際に以下の能力を有しているかを重視します。 ● 志望分野において十分な専門性を身につけ、工学的な基礎力・思考力を有していること。 ● 未知の課題を解決する意欲を有していること。 ● 基本的なコミュニケーション能力と外国語能力を有すること。

工学系研究科（博士課程）

教育研究上の目的

工学を基盤として未踏分野の開拓や新たな技術革新に果敢に挑戦し、人類社会の持続と発展に貢献するとともに、科学技術に関する体系的な知識と工学的な思考方法を身につけ、多様性への理解と広い視野を持って社会的課題の解決を目指す実行力を持った人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院工学系研究科は、大学院の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。 ● 専門分野における世界トップレベルの先端的かつ体系的な知識を有していること。 ● 工学的、論理的な思考力を有し、それを高度に活用する力を有していること。 ● 未知の課題に取り組み、独創性の高い研究を遂行する能力を有していること。 ● 多様なコミュニティとも積極的に交流し、情報交換や討論ができる国際性を有していること。 ● 人類の持続的発展に貢献するために、高い倫理観・責任感を持ち、社会のリーダーとして活躍する能力を有していること。 ● 所定の期間在学して、所定科目、単位を修得し、博士の学位論文審査及び最終試験に合格していること。	東京大学大学院工学系研究科は、学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。 ● 専攻する分野における先端的な内容の専門教育により、高度で体系的な知識を獲得する。 ● 講義、実験・演習、博士論文研究を通じて、論理的思考力を培うとともに、専門分野における課題を発見し、それを解決する高い能力を養う。 ● 博士論文研究において、未知の課題に取り組んで新しい知を生み出す過程を通じて、独創的な研究を生み出すための高度な着想力や創造力を養う。 ● 講義や演習を通して、多様なコミュニティとも積極的に交流し、情報交換や討論ができる国際性を養う。 ● 演習・博士論文研究や各種活動を通して、コミュニケーション能力、リーダーシップ、他者と協働する能力を養う。 ● e ラーニング等を活用した科学技術に関する倫理教育を行う。 ● 成績評価と論文審査により、学修成果を評価する。 ● 成績評価は、本学で定める成績評価基準及び科目ごとに明示した評価方法（試験やレポートなど）により適正に行う。 ● 博士の学位論文の評価は、審査の手続きや基準を定めて、提出論文及び複数の教員による口頭審査により厳正に行う。	東京大学大学院工学系研究科では、工学を基盤として未踏分野の開拓や新たな技術革新に果敢に挑戦し、人類社会の持続と発展に貢献するとともに、科学技術に関する体系的な知識と工学的な思考方法を身につけ、多様性への理解と広い視野を持って社会的課題の解決を目指す実行力を持った人材を育成することを教育研究上の目的として定めています。 求める学生像 1) 本研究科が掲げる教育研究上の目的に共感し、強い意欲を持って学ぼうとする人 2) 専攻する分野における高度な専門知識に加えて、工学的・論理的な思考力及び創造力を有し、社会課題の解決に強い意欲を持つ人 3) 優れたコミュニケーション能力、外国語能力及び健全な倫理観を持ち、多様性を尊重して国際社会に貢献することを目指す人 入学者選抜の方針 求める学生像に基づき、筆記試験、口頭試問を実施し、併せて出身校の学業成績や外国語能力等を含む提出書類等を評価して選抜します。その際に以下の能力を有しているかを重視します。 ● 志望分野において高度な専門性を身につけ、工学的な深い思考力を有していること。 ● 未知の課題を発見して、それを創造的に解決・展開する資質を有していること。 ● 国際的なコミュニケーション能力を有しており、それによる研究成果の発信ができること。

工学系研究科（専門職学位課程）

教育研究上の目的

工学を基盤として未踏分野の開拓や新たな技術革新に果敢に挑戦し、人類社会の持続と発展に貢献するとともに、科学技術に関する体系的な知識と工学的な思考方法を身につけ、多様性への理解と広い視野を持って社会的課題の解決を目指す実行力を持った人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院工学系研究科原子力専攻（専門職大学院）は、大学院の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に原子力修士（専門職）の学位を授与する。 ● 高度な専門性が求められる原子力施設を安全に運転し、維持管理し、さらにこれらを監督指導するために必要な深い学識と卓越した素養を有していること。 ● 原子力を利用する上での高い倫理観や社会へ積極的に貢献する意志を有していること。 ● 人類の持続的発展に貢献するために、社会のリーダーとして活躍する素養や開拓者精神を有していること。 ● 所定の期間在学して、所定の単位を修得していること。	東京大学大学院工学系研究科原子力専攻（専門職大学院）は、学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。 ● 高度原子力専門技術者の養成に必要な専門教育を実施する。 ● 放射性物質等を用いた実験・演習を通して、原子力で必要となる高度な知識を実践的に体得させる。 ● 活動を通してコミュニケーション能力、リーダーシップ、他者と協働する能力を養う。 ● 工学倫理に関する教育を行う。 ● 本学で定める成績評価基準及び科目ごとに明示した評価方法（試験やレポートなど）により、適正に学修成果を評価する。	東京大学大学院工学系研究科では、工学を基盤として未踏分野の開拓や新たな技術革新に果敢に挑戦し、人類社会の持続と発展に貢献するとともに、科学技術に関する体系的な知識と工学的な思考方法を身につけ、多様性への理解と広い視野を持って社会的課題の解決を目指す実行力を持った人材を育成することを教育研究上の目的として定めています。 求める学生像 1) 本研究科が掲げる教育研究上の目的に共感し、強い意欲を持って学ぼうとする人 2) 専攻する分野における十分な基礎知識に加えて、工学的・論理的な思考力を有し、社会的課題の解決に強い意欲を持つ人 3) 基本的なコミュニケーション能力、外国語能力及び健全な倫理観を持ち、多様性を尊重して社会に貢献することを目指す人 入学者選抜の方針 求める学生像に基づき、筆記試験、口頭試問を実施し、併せて出身校の学業成績や外国語能力等を含む提出書類等を評価して選抜します。その際に以下の能力を有しているかを重視します。 ● 志望分野において十分な専門性を身につけ、工学的な基礎力・思考力を有していること。 ● 未知の課題を解決する意欲を有していること。 ● 基本的なコミュニケーション能力と外国語能力を有すること。 ● 健全な倫理観を有していること。

農学生命科学研究科（修士課程）

教育研究上の目的

農学の基盤を形成する諸科学に関する高度な教育、研究を進め、人類が抱える食料や環境をめぐる多様な課題に取り組む専門性豊かな人材を養成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成し、所定の単位を修得し学位論文審査及び試験に合格した学生に学位を授与する。 ● 農学生命科学分野に係る十分な学識を基盤として、高い倫理と責任をもって世界の発展や環境の保全に寄与する意思と能力を有する。 ● 食料・資源・環境等に関する多様な課題を自ら発見し、その解決に向けて独創的な研究を遂行し、外部に発信する能力を身につけている。	東京大学大学院農学生命科学研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。 ● 講義と演習、研究指導を組み合わせた高度な専門性を身につける教育を体系的に編成する。 ● 研究者や技術者としての自身の倫理感と責任感を育むプログラムを提供する。 ● 農学生命科学に関わる専門領域を俯瞰する能力を育むため、専攻横断的な教育プログラムを提供する。 ● 各科目の学修における達成度評価基準を明示するとともに、本学及び各専攻で定める成績評価基準に基づき、学習成果の評価ならびに学位論文もしくは特定の課題に基づく研究能力の審査及び試験を厳格に行う。	東京大学入学者受入方針及び本研究科教育研究上の目的を踏まえながら、以下のとおり定める。 （期待する学生像） ● 農学生命科学が抱える食料や環境をめぐる多様な課題に取り組む意思と基礎的な能力を有する人 ● 世界的な視野を持ち、高度な専門知識の習得及び研究能力の向上に熱意をもって取り組む人 （選抜方針） 選抜にあたっては、以下の点を問う。 ● 志望分野に関する専門知識を有しているとともに、農学生命科学全般にわたっての広い知識及び基礎的な外国語能力を有していること ● 主体的に知識習得、問題発見に取り組む意欲と能力を有していること 入学者の選抜は、一般選抜においては、筆記試験、口述試験、出身学校の学業成績及び提出書類等、社会人特別選抜においては、筆記試験、口述試験、出身学校の卒業成績、事前に提出する研究計画及び提出書類等による。

農学生命科学研究科（博士課程）

教育研究上の目的

農学の基盤を形成する諸科学に関する高度な教育、研究を進め、人類が抱える食料や環境をめぐる多様な課題に取り組む専門性豊かな人材を養成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
博士後期課程 東京大学大学院農学生命科学研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成し、所定の単位を修得し学位論文審査及び試験に合格した博士後期課程学生に博士（農学）の学位を授与する。 ● 農学生命科学分野に係る高度な学識を基盤として、高い倫理と責任をもって世界の発展や環境の保全に大きく寄与する意思と高い能力を有する。 ● 食料・資源・環境等に関する多様な課題を自ら発見し、その解決に向けて独創的な研究を遂行し、広く世界に向けて発信する能力を身につけている。	博士後期課程 東京大学大学院農学生命科学研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき博士後期課程の教育を体系的に編成・実施する。 ● 研究指導を中心として極めて高度な専門性を身につける教育を体系的に編成する。 ● 研究者や技術者としての自身の倫理感、責任感及び指導者として周囲に啓蒙できる能力を育むプログラムを提供する。 ● 農学生命科学に関わる専門領域を俯瞰する能力を高めるため、グローバルな教育プログラムを提供する。 ● 各科目の学修における達成度評価基準を明示するとともに、本学及び各専攻で定める成績評価基準に基づき、学習成果の評価ならびに学位論文もしくは特定の課題に基づく研究能力の審査及び試験を厳格に行う。	博士後期課程 東京大学入学者受入方針及び本研究科教育研究上の目的を踏まえながら、以下のとおり定める。 （期待する学生像） ● 農学生命科学が抱える食料や環境をめぐる多様で高度な課題に取り組む意思と能力を有する人 ● 高度な最先端の専門知識の習得、研究能力の向上及び世界に対して研究成果を発信することに熱意をもって取り組む人 （選抜方針） 選抜にあたっては、以下の点を問う。 ● 志望分野に関する高い専門知識を有しているとともに、農学生命科学全般にわたっての広範な知識及び対外発信に耐えうる十分な外国語能力を有していること ● 主体的に知識習得、問題発見に取り組む意欲と能力を十分に有していること ● 専門分野に関する基礎的な指導力を有していること 博士後期課程の入学者の選抜は、一般選抜においては、筆記試験、面接、口述試験、出身学校の学業成績及び修士の学位論文又はこれに代わるものの審査及び各専攻の定める提出書類等、社会人特別選抜においては、筆記試験、面接、口述試験、出身学校の学業成績、事前に提出する研究計画及び各専攻の定める提出書類等による。
獣医学博士課程 東京大学大学院農学生命科学研究科は、次世代の優れた研究者と技術者の育成を行うため、次に掲げる目標を達成し、所定の単位を修得し学位論文審査及び試験に合格した獣医学博士課程学生に対し博士（獣医学）の学位を授与する。 ● 農学生命科学及び獣医学分野に係る高度な学識を基盤として、高い倫理と責任をもって世界の発展や環境の保全に大きく寄与する意思と高い能力を有する。 ● 獣医学及び食料・資源・環境等に関する多様な課題を自ら発見し、その解決に向けて独創的な研究を遂行し、広く世界に向けて発信する能力を身につけている。特に 1) 世界屈指の基礎研究により、学術のパラダイムシフトを起こし、獣医学分野における革新的な技術革新のシーズを提供する研究者、2) 基礎研究の成果をもとにトランスレーショナルリサーチを行い、全く新たな技術シーズを生み出す研究者、3) 獣医学の各分野においてトランスレーショナルリサーチの結果を革新的な技術の開発に結びつける技術者、4) 日本国内にとどまらず、世界各地で獣医学に関連する研究に携わり活躍する研究者、としての能力を有する。	獣医学博士課程 東京大学大学院農学生命科学研究科は、学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき獣医学博士課程の教育を体系的に編成・実施する。 ● 研究指導を中心として極めて高度な専門性を身につける教育を体系的に編成する。 ● 研究者や技術者としての自身の倫理感、責任感及び指導者として周囲に啓蒙できる能力を育むプログラムを提供する。 ● 農学生命科学に関わる専門領域を俯瞰する能力を高めるため、グローバルな教育プログラムを提供する。 ● 各科目の学修における達成度評価基準を明示するとともに、本学及び各専攻で定める成績評価基準に基づき、学習成果の評価ならびに学位論文もしくは特定の課題に基づく研究能力の審査及び試験を厳格に行う。	獣医学博士課程 東京大学入学者受入方針及び本研究科教育研究上の目的を踏まえながら、以下のとおり定める。 （期待する学生像） ● 農学生命科学が抱える食料や環境をめぐる多様で高度な課題に取り組む意思と能力を有する人 ● 高度な最先端の専門知識の習得、研究能力の向上及び世界に対して研究成果を発信することに熱意をもって取り組む人 （選抜方針） 選抜にあたっては、以下の点を問う。 ● 志望分野に関する高い専門知識を有しているとともに、農学生命科学全般にわたっての広範な知識及び対外発信に耐えうる十分な外国語能力を有していること ● 主体的に知識習得、問題発見に取り組む意欲と能力を十分に有していること ● 専門分野に関する基礎的な指導力を有していること 6年生の獣医学課程あるいは生物学系の修士課程を卒業・修了し、獣医学分野における研究者を目指す使命感と国際感覚にあふれる人材及び世界的な議題を解決する意欲と高度な能力を持った獣医学研究者をめざす者を広く求める。 獣医学博士課程の入学者の選抜は、一般選抜においては、筆記試験、口述試験、事前に提出する研究計画、出身学校の学業成績及び提出書類等、社会人特別選抜においては、筆記試験、口述試験、出身学校の学業成績、事前に提出する研究計画及び提出書類等による。

医学系研究科（修士課程・博士課程・専門職学位課程）

教育研究上の目的

生命現象のしくみの解明、疾病の克服および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、医学系領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院医学系研究科では教育研究上の目的に定める人材を育成するため、所定期間在学し、必要な単位を取得のうえ、学位論文審査及び試験に合格し、次のとおり優れた知識と能力を身につけている学生に学位を授与します。また規定に則り、同等の優れた知識と能力を身につけている研究者に、論文審査等を経て学位を授与する場合があります。	東京大学大学院医学系研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。また、学位論文もしくは課題研究論文に基づく研究能力の審査及び試験を厳格に行います。	個別学力試験や口頭試問等を実施し、学修を希望する専門分野の基礎的知識と論理的な思考能力および外国語能力を評価して選抜します。各課程や専攻の求める学生像は以下のとおりです。
修士課程 - 幅広い医学の基礎知識及び健康科学、看護学、国際保健学又は医科学の知識を身につけ、社会に貢献するための高い倫理観と責任感を持つ。 - 健康科学、看護学、国際保健学又は医科学の知識を自然科学や社会科学の方法論により活用できる能力を身につけている。 - 健康科学・看護学専攻では、修士論文は、指導教員の指導をふまえて作成・発表され、健康科学看護学領域における研究活動を行っていく上での基礎的な能力について評価される。 - 国際保健学専攻では、自立した研究者として最先端の国際的研究を遂行するための基礎的能力が備わっているか、専攻における論文発表会および修士論文によって評価される。 - 医科学専攻では、基礎医学・生命科学の分野において自立した研究者として独創的な最先端の研究活動を行っていくために必要な基盤となる能力が備わっているか、医科学専攻修士論文および論文発表会における発表と質疑応答によって評価される。	修士課程 学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。 - 健康科学・看護学専攻については、研究、教育の基礎的な知識、技術、倫理を身につけるための科目を開講・実施する。また保健師または助産師の教育コースを設けて国家資格取得に向けた講義・実習を行う。 - 国際保健学専攻については、国際的研究を遂行するための基礎的な知識、技術、倫理を学生が身につけるための科目を開講・実施する。平行して国際保健学上の基礎的なテーマに関する研究を指導し、実験・調査の基礎的な知識・技術や研究倫理、研究発表の方法を体得させる。さらに、英語による科学的な議論の能力を身につけるため、講義、各教室のミーティングは、ほとんどが英語で行われる。また、修士論文は英語で記述し、修士論文の発表・審査も英語で行う。これにより、英語での論文執筆と発表を体得することを目指す。 - 医科学専攻については、医学以外のバックグラウンドを持つ学生が入学後広く医学に接し、医学研究の力を養成するため、(1)医学基礎講義（共通の医学の知識を身につけさせるため、多方面にわたる医学の基礎知識を教授するとともに、最先端の医学研究について概説する）、(2)病院実習（希望者に対し、最先端の医療現場を体験させ、医療従事者との交流を図る。また、病気、患者及び診断・治療の実態を理解し医学研究者としての心構えを体得させるため、各診療科の訪問、診療・手術の見学、等を通して医療現場の現状と課題を実習させる）、(3)研究室ローテーション（配属先を決めずに入学した学生に対し、各研究室に一定期間、体験在籍）を経た後、基礎系研究室に配属し学位研究の指導を行う。 - 学修成果の評価については、各科目の到達目標や成績評価の方法をシラバスにおいて明示する。学位論文審査においては、審査基準と審査方法をあらかじめ明示し、それに基づき審査体制を整備したうえで、論文審査および最終試験を厳格かつ公正に行う。	修士課程 - 東京大学大学院医学系研究科修士課程は、生命現象のしくみの解明、疾患の予防・克服と回復の促進、発達支援・健康増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、各専門分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーとしてのポテンシャルをもつ学生を求める。この基本理念をふまえ、専門分野を学ぶための十分な基礎学力を具え、新たな知的価値を創出することのできる学生を求める。 - 入学者選抜においては、以下の点が問われる。 - 各専門分野に求められる医学・保健学および関連領域に関する広く基礎的な知識を礎として、生命現象のしくみの解明、疾患の予防・克服と回復の促進、発達支援・健康増進に向けて各専門分野において独創的な研究に取り組むことができる能力を持っていること。 - 論理的で明晰な分析力と、既存の概念にとらわれない新鮮な着想力で、医学・看護学・保健学の各専門分野において自らが主体的に問題を発見し、それらを解決していく能力と意欲をもっていること。 - 大学院で獲得した高度な知識と研究能力を礎として、医学・看護学・保健学の各分野において国際的なリーダーとして活躍できる能力を持っていること。 - 将来国際的リーダーとして活躍しうるに足る外国語能力の基礎を具えていること。特に国際保健学専攻においては英語による講義、演習に必要な英語コミュニケーション能力を有すること。 なお、医学系研究科修士課程の各専攻では以下の教育研究上の目的を掲げており、入学者選抜においてはこれらの目標達成に必要な基礎的素養を具えていることが求められる。 【医科学専攻】 東京大学大学院医学系研究科医科学専攻修士課程では、医学系の最先端研究を遂行するために必要な基礎学力を具えており、生命現象のしくみの解明・疾患の克服に寄与し新たな知的価値を創出できる国際的リーダーを養成することを目的とする。 【国際保健学専攻】 東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻の修士課程は、生命現象のしくみの解明、疾病の克服および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、医学系領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成することを目的とする。 【健康科学・看護学専攻】 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻の修士課程は、出生前から人生の最期に至るまで、ライフサイクルの各期に応じた発達支援・健康増進、疾病の予防と回復、支援環境整備に寄与する研究を推進するとともに、これらの課題を解決し改善していける国際的リーダーを養成することを目的とする。

博士後期課程 保健学において高い学識を有するとともに研究者としての品格を備え、かつ将来的に自立した研究者として研究活動を行っていく能力を有していること、また高い倫理観と責任感をもち、高度なコミュニケーション能力に基づいて国際的なリーダーとなりうる能力を有していることが必要とされる。そのうえで次にあげる具体的な基準に基づいて学位論文が審査される。 - 論文の学術的価値および完成度が高く、東京大学大学院医学系研究科にふさわしいものである。 - 研究の背景と位置づけが十分に説明されている。 - 研究に新規性と独創性がある。 - 研究方法およびデータ解析が妥当である。 - 研究の倫理性に問題がない。 - 実験・データが質・量ともに充分であり研究結果が明確である。 - 結果の解釈および結論が妥当である。 - 議論が論理的で焦点が定まっている。 - 博士課程修了後6ヶ月以内に厳正な査読を有する英文学術雑誌に投稿することが可能と判定される。	博士後期課程 学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。 - 健康科学・看護学専攻、国際保健学専攻については、研究を企画・遂行するための最先端の知識、技術、倫理を学生が身につけるため、特論、演習、実習などの科目を開講・実施する。平行して最先端のテーマに関する研究を指導し、実験・調査に必要な高度の知識・技術や研究倫理、研究の計画申請・成果発表の方法を体得させる。さらに、国際保健学専攻においては、講義や各教室のミーティングのほとんどを英語で行うことで、国際的な研究を展開するためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を英語で獲得することを目指す。 - 学修成果の評価については、各科目の到達目標や成績評価の方法をシラバスにおいて明示する。学位論文審査においては、審査基準と審査方法をあらかじめ明示し、それに基づき審査体制を整備したうえで、論文審査および最終試験を厳格かつ公正に行う。	博士後期課程 - 東京大学大学院医学系研究科博士後期課程は、生命現象のしくみの解明、疾患の予防・克服と回復の促進、発達支援・健康増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、各専門分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーとしてのポテンシャルをもつ学生を求める。 - 入学者選抜においては、以下の点が問われる。 - 医学・看護学・保健学に関する基本的な知識を礎として、生命現象のしくみの解明、疾患の予防・克服と回復の促進、発達支援・健康増進に向けて保健学・看護学における課題解決に向けて独創的な研究に取り組む能力をもっていること。 - 論理的で明晰な分析力と、既成の概念にとらわれない新鮮な着想力で、医学・看護学・保健学の未来を切り拓いていく能力をもっていること。 - 大学院で獲得した高度な知識と研究能力を礎として、専門領域の各分野において国際的なリーダーとして活躍できる能力と意欲をもっていること。 - 英語による講義、演習に必要な英語コミュニケーション能力と医学・保健学および関連領域の基礎的知識を有すること。 なお、医学系研究科博士後期課程の各専攻では以下の教育研究上の目的を掲げており、入学者選抜においてはこれらの目標達成に必要な基礎的素養を具えていることが求められる。 【国際保健学専攻】 東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻の博士後期課程は、生命現象のしくみの解明、疾病の克服および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、医学系領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成することを目的とする。 【健康科学・看護学専攻】 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻の博士後期課程は、出生前から人生の最期に至るまで、ライフサイクルの各期に応じた発達支援・健康増進、疾病の予防と回復、支援環境整備に寄与する最先端研究を推進するとともに、健康科学・看護学領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成することを目的とする。
医学博士課程 医学あるいは保健学において高い学識を有するとともに研究者としての品格と高度の倫理観を備え、かつ課程修了後に自立した研究者として研究活動を遂行する能力と責任感を有していることが必要とされる。そのうえで以下の知識と能力を獲得した学生に博士(医学)の学位を授与する。 - 優れた分析力や着想力に基づく学術的業績を有する。 学術的業績は、次にあげる具体的な基準に基づいて審査される学位論文によって評価される。 - 論文の学術的価値および完成度が高く、東京大学大学院医学系研究科にふさわしいものである。 - 研究の背景と位置づけが十分に説明されている。 - 研究に新規性と独創性がある。 - 研究方法およびデータ解析が妥当である。 - 研究の倫理性に問題がない。 - 実験・データが質・量ともに充分であり研究結果が明確である。 - 結果の解釈および結論が妥当である。 - 議論が論理的で焦点が定まっている。	医学博士課程 学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。 - 医学の専門的知識と技能を結集した学際的研究・教育を提供する。 - 世界をリードする先端的・独創的研究を実施するための高度な実験法や技術修得の場を提供する。 - 科学の進歩に適応しうる問題解決能力と高度で幅広い知識を修得する場を提供する。 - 先端研究を推進していくためのコミュニケーション能力、国際的視野、倫理性を修得する教育を実施する。 - 学際的・国際的に研究を展開し、研究の社会的還元までを目指すリーダーシップを発揮することを可能とする修学環境を提供する。 - 学位論文審査等により学修成果を評価する。学位論文審査については、審査基準と審査方法をあらかじめ明示し、それに基づき審査体制を整備したうえで、論文審査および最終試験を厳格かつ公正に行う。	医学博士課程 - 東京大学大学院医学系研究科医学博士課程は、生命現象のしくみの解明、疾病の克服および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、医学系領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーとしてのポテンシャルをもつ学生を求める。 - 入学者選抜においては、以下の点が問われる。 - 医学に関する基本的な知識を礎として、生命現象の解明、疾病の克服と回復の促進、健康の増進に向けて独創的な研究に取り組む能力をもっていること。 - 論理的で明晰な分析力と、既成の概念にとらわれない新鮮な着想力で、医学の未来を切り拓いていく能力をもっていること。 - 大学院で獲得した高度な知識と研究能力を礎として、医学系領域の各分野において国際的なリーダーとして活躍できる能力と意欲をもっていること。 なお、医学博士課程の各専攻では以下の教育研究上の目的を掲げており、入学者選抜においてはこれらの目標達成に必要な基礎的素養を具えていることが求められる。 【分子細胞生物学専攻】 分子細胞生物学専攻は、細胞生物学、分子生物学、生化学および発生工学、遺伝学の領域で、最先端の研究を推進し医学・生命科学の根幹の発展に貢献すると共に、高度な学識と研究能力を有し国際的リーダーとして活躍できる医学研究者を養成することを目的とする。 【機能生物学専攻】 機能生物学専攻は、生命現象の解明と機能発現のしくみを明らかにし、疾病の克服に寄与する最先端研究を推進するとともに、機能生物学分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成することを目的とする。 【病因・病理学専攻】 病因・病理学専攻は、疾病の成立のメカニズムを明らかにし、その対策を確立するための独創的な研究を遂行するとともに、高度な学識と研究遂行能力を有する国際的リーダーを養成することを目的とする。

- 博士課程修了後6ヶ月以内に厳正な査読を有する英文学術雑誌に投稿することが可能と判定される。 ● 広い国際的視野と高いコミュニケーション能力を有する。 ● 医学の発展に寄与するリーダーとして能力を有する。		【生体物理医学専攻】 生体物理医学専攻は、医学、工学、化学および物理学の境界領域として発展を続ける生体医工学、生物物理学、放射線医学に関する最先端研究を推進することで、生命現象を成立させている未知の原理を探求するとともに新しい医療技術の開発を行って、この分野における独創性の高い研究を遂行できる国際的リーダーを養成することを目的とする。 【脳神経医学専攻】 脳神経医学専攻は、脳神経系の機能の解明、疾病の克服および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、医学系領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成することを目的とする。 【内科学専攻】 内科学専攻は、内科疾患の病態生理を、分子、細胞、個体、さらに集団のレベルで理解し、疾患のメカニズムを明らかにすることを目指している。同時に、疾患を生命現象の破綻としてとらえ、生命科学の進歩にも貢献する。さらにこれらの成果を新しい診断や治療法の開発に展開する研究者も育成する。これらの活動により内科学領域において卓越した学識と高度な診療技術、および独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成する。 【生殖・発達・加齢医学専攻】 生殖・発達・加齢医学専攻は、生殖内分泌学、生殖腫瘍学、周産期医学、分子細胞生殖医学、小児科学、発達発育学、小児外科学、小児腫瘍学、老年病学、老化制御学の10分野から成り、各専攻分野において独創的な研究を遂行するとともに、高度な学識と研究遂行能力を有する国際的リーダーを養成することを目的とする。特に、ヒトの疾病の病因・病態の解明、治療法の開発を、生殖、発達、加齢という時間軸の視点から行うことを共通の基盤としている。 【外科学専攻】 外科学専攻は、臨床系の外科を中心に、臓器病態外科学、感覚運動機能医学、生体管理医学までの16分野を包括する幅広い学問分野を守備範囲とする。各分野により研究内容は異なるが、各分野における最先端研究を推進するとともに、新しい医療技術の開発を行い、独創性の高い研究を遂行できる国際的リーダーを養成することを目的とする。 【社会医学専攻】 社会医学専攻は、人間集団を対象として、環境、社会および情報等の観点から、疾病の原因究明、疾病の予防および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、社会医学を構成する諸分野の中核を担う国際的リーダーを養成することを目的とする。
専門職学位課程 公共健康医学専攻専門職大学院では、①人間集団の健康を対象にした分析手法を身につけ、②保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、③政策立案・マネジメント能力に優れた、④パブリックヘルス・マインドを持った高度専門職業人の育成をするため、教育課程の編成・実施方針に沿った所定の単位を取得した学生に公共健康医学修士（専門職）の学位を授与する。	専門職学位課程 公共健康医学専攻専門職大学院では①人間集団の健康を対象にした分析手法を身につけ、②保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、③政策立案・マネジメント能力に優れた、④パブリックヘルス・マインドを持った高度専門職業人の育成をする。公共健康医学専攻（専門職修士）課程では、上記目的を達成するために以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。 ● カリキュラムは、疫学・数量分析を対象にした科目群、保健医療領域の行動科学・社会科学に関連した科目群、保健医療及び臨床現場に関わる政策・マネジメントを対象にした科目群により構成され、公衆衛生の大学院教育のグローバルスタンダードに相当する科目は必修とする。 ● 1年制課程については選抜の要件として実務経験や職業倫理性を考慮し、2年制課程については、指導教員のもとで「課題研究」に取り組むことで、公衆衛生の実践活動や研究活動に直に接する機会等を得て、国民や地域住民の健康維持・増進に関わる専門家としての自覚を養う。 ● 理論と実践の双方に配慮し、講義・演習など多様な教育手法を取り入れたカリキュラムを構成する。 ● 公衆衛生の今日的課題の性質を鑑み、グローバルな視野を育むテーマを取り上げる。	専門職学位課程 1. 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻専門職学位課程では、国内外の地域、職場、保健・医療・介護・福祉の場を含むあらゆるコミュニティにおいて、すべての人々の健康維持、増進、回復及び生活の質（quality of life）の改善に寄与する最先端研究を推進するとともに、公衆衛生領域で指導的及び実践的役割を果たす高度専門職業人として将来活躍することをめざす人を求める。 2. 入学選抜においては、以下の点が問われる。 ● 医・歯・薬・看護・保健学などの保健医療系、あるいは公共健康医学に関連する広範な学術領域における学部教育の素養を有する。もしくは関連の実務経験を有すること。 ● 公共健康医学に含まれる広範な領域に関する基礎知識および関連専門分野について強い関心と学習意欲を備え、独創的な学術研究、政策立案、技術開発に取り組むことができる能力を持っていること。 ● 論理的で明晰な分析力と、既成の概念にとらわれない新鮮な着想力で、公共健康医学の未来を切り拓いていく能力を持っていること。 ● 大学院で獲得した高度な知識と研究能力を礎として、公共健康医学系領域の各分野において国際的なリーダーとして活躍できる能力を持っていること。

	● 学修成果の評価については、各科目の到達目標や成績評価の方法をシラバスにおいて明示する。課題研究においては、審査基準と審査方法をあらかじめ明示し、それに基づき審査体制を整備したうえで、審査を厳格かつ公正に行う。	
--	--	--

薬学系研究科（修士課程）

教育研究上の目的

医薬の創製からその適正使用までを目標とし、生命に関わる物質、及び、その生体との相互作用を対象とする学問体系である。本研究科は薬学の全ての分野において、最高水準の研究活動を行い、これに裏付けられた教育活動により、創薬科学および基礎生命科学の発展に寄与する研究者、医療行政に貢献する人材、高度医療を担う薬剤師の養成を教育・研究の目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院薬学系研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成し、所定の単位を修得し学位論文審査及び試験に合格した学生に修士（薬科学）の学位を授与します。 ● 創薬科学および生命薬学分野の広範でかつ揺るぎない学力の修得 ● 創薬科学および生命薬学分野において、科学的に迫及するに値する研究課題を設定できる能力、および研究推進・課題解決能力の涵養 ● 自他の研究を本質的かつグローバルな視点から評価し、建設的に批判・議論できる能力の涵養 ● 豊かな人間性と優れたリーダーシップ、人類全体の公共的な生命の維持や健康の増進に貢献するための責任感、使命感、倫理観の涵養に基づく研究遂行能力の獲得 ● 国際的に情報発信しコミュニケーションをはかるための語学力と国際感覚の修得	東京大学大学院薬学系研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。 ● 2年以上在学して、薬学系研究科が掲げる教育理念・目標に沿って設定した有機化学、物理化学、生物化学を機軸とする講義科目を履修する。単位認定評価は、各授業において学習達成度を反映する基準を定め、明示してある評価方法によりおこなう。 ● 研究室に所属して研究指導を受け、最先端の専門研究の現場において、課題設定能力、研究推進・課題解決能力、国際誌からの情報収集能力、ディスカッション能力、社会性、コミュニケーション能力、成果発信能力などを修得する。 ● 修士論文を執筆、提出し、修士発表等の所定の試験に合格することが修士課程学位授与の要件である。学位授与の認定評価は、主査および副査の指導教員とその他の複数の教員の合議によりおこなう。	東京大学大学院薬学系研究科修士課程は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）ならびに教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、有機化学、物理化学、生物化学を機軸に最高水準の教育・研究活動を行い、化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学など薬学がカバーすべき広範な分野をリードする優れた創薬科学研究者、基礎生命科学研究者を養成することを目指しています。このような目標のもと、薬学系研究科修士課程では、深い専門性に根ざした薬学的な思考法、論理的で先端的な方法論や分析能力などを身につけることができる人、ならびに高度な知識と研究能力を礎として薬学がカバーすべき広範な基礎及び応用科学の諸分野をリードし、将来にわたり国際的な活躍を目指す人を求めています。 入学者選抜においては、筆記その他の方法による専門試験、口述試験、外国語試験及び出身学校の学業成績により、上記の分野に関する基礎的知識、専門的知識及び英語能力が問われ、人物像等を総合して判定します。

薬学系研究科（博士課程）

教育研究上の目的

医薬の創製からその適正使用までを目標とし、生命に関わる物質、及び、その生体との相互作用を対象とする学問体系である。本研究科は薬学の全ての分野において、最高水準の研究活動を行い、これに裏付けられた教育活動により、創薬科学および基礎生命科学の発展に寄与する研究者、医療行政に貢献する人材、高度医療を担う薬剤師の養成を教育・研究の目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
博士後期課程 東京大学大学院薬学系研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成し、所定の単位を修得し学位論文審査及び試験に合格した学生に博士（薬科学）の学位を授与します。 - 創薬科学および生命薬学分野の広範で統合的かつ揺るぎない学力の修得 - 創薬科学および生命薬学分野において、科学的に迫及するに値する研究課題を自主的に設定できる能力、および最高水準の研究推進・課題解決能力の涵養 - 自他の研究を本質的かつグローバルな視点から評価し、建設的に批判・議論できる能力の涵養 - 研究チームを率いて研究を達成する能力の涵養 - 豊かな人間性と優れたリーダーシップ、人類全体の公共的な生命の維持や健康の増進に貢献するための責任感、使命感、倫理観の涵養に基づく発展的な研究遂行能力の獲得 - 国際的に情報発信しコミュニケーションをはかるための語学力と国際感覚の修得	博士後期課程 東京大学大学院薬学系研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。 - 研究室に3年以上所属して研究指導を受け、最先端の専門研究の現場において、課題設定能力、研究推進・課題解決能力、国際誌からの情報収集能力、ディスカッション能力、社会性、コミュニケーション能力、成果発信能力、研究指導能力などを修得する。 - 博士課程学位論文発表等の所定の試験に合格することが博士課程学位授与の要件である。学位授与の認定評価は、主査および副査の指導教員とその他の複数の教員の合議によりおこなう。	博士後期課程 東京大学大学院薬学系研究科博士後期課程は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）ならびに教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、有機化学、物理化学、生物化学を機軸に最高水準の教育・研究活動を行い、化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学など薬学がカバーすべき広範な分野をリードする優れた創薬科学研究者、基礎生命科学研究者を養成することを目指しています。このような目標のもと、薬学系研究科博士後期課程では、深い専門性に根ざした薬学的な思考法、論理的で先端的な方法論や分析能力などを統合的かつ自主的に身につけることができる人、ならびに高度な知識と研究能力を礎として薬学がカバーすべき広範な基礎及び応用科学の諸分野を発展的にリードし、将来にわたり国際的リーダーとしての活躍を目指す人を求めています。 入学者選抜においては、筆記その他の方法による専門試験、口述試験、外国語試験、修士の学位論文又はこれに代わるものの審査及び出身学校の学業成績により、上記の分野に関する専門的知識及び英語能力が問われ、発表能力、人物像等を総合して判定します。
薬学博士課程 東京大学大学院薬学系研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成し、所定の単位を修得し学位論文審査及び試験に合格した学生に博士（薬学）の学位を授与します。 - 創薬科学、生命薬学、医療薬学、社会薬学分野の広範で統合的かつ揺るぎない学力の修得 - 創薬科学、生命薬学、医療薬学、社会薬学分野において、科学的に迫及するに値する研究課題を自主的に設定できる能力、および最高水準の研究推進・課題解決能力の涵養 - 自他の研究を本質的かつグローバルな視点から評価し、建設的に批判・議論できる能力の涵養 - 研究チームや医療チームを率いて研究を達成する能力の涵養 - 豊かな人間性と優れたリーダーシップ、人類全体の公共的な生命の維持や健康の増進に貢献するための責任感、使命感、倫理観の涵養に基づく発展的な研究遂行能力の獲得 - 国際的に情報発信しコミュニケーションをはかるための語学力と国際感覚の修得	薬学博士課程 東京大学大学院薬学系研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。 - 高度な先端医療や臨床開発を担う指導的薬剤師として、専門知識と技能、臨床研究を企画・遂行できる能力を修得する。単位認定評価は、各授業において学習達成度を反映する基準を定め、明示してある評価方法により行う。 - 研究室に4年以上所属して研究指導を受け、最先端の専門研究の現場において、課題設定能力、研究推進・課題解決能力、国際誌からの情報収集能力、ディスカッション能力、社会性、コミュニケーション能力、成果発信能力、研究指導能力などを修得する。 - 博士課程学位論文発表等の所定の試験に合格することが博士課程学位授与の要件である。学位授与の認定評価は、主査および副査の指導教員とその他の複数の教員の合議によりおこなう。	薬学博士課程 東京大学大学院薬学系研究科薬学博士課程は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）ならびに教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、医療薬学、社会薬学、創薬学を機軸に最高水準の教育・研究活動を行い、医療系薬学、社会系薬学、創薬系薬学などの分野で実践的な研究能力を有する優れた先導的薬剤師、医療行政従事者、創薬開発・研究従事者を養成することを目指しています。このような目標のもと、薬学系研究科薬学博士課程では、深い専門性に根ざした薬学的な思考法、論理的で先端的な方法論や分析能力などを統合的かつ自主的に身につけることができる人、ならびに高度な知識と研究能力を礎として薬学がカバーすべき広範な基礎及び応用科学の諸分野を発展的にリードし、将来にわたり国際的リーダーとしての活躍を目指す人を求めています。 入学者選抜においては、筆記その他の方法による専門試験、口述試験、外国語試験及び出身学校の学業成績により、上記の分野に関する専門的知識及び英語能力が問われ、発表能力、人物像等を総合して判定します。

数理科学研究科（修士課程）

教育研究上の目的

数学・数理科学に関する体系的な知識と高度な研究能力を修得し、数学・数理科学の諸分野において、第一線で活躍する研究者、ならびに数学・数理科学の幅広い素養と専門的な判断力を身につけ、社会の広範な領域で新しい時代を担う人材を育成し、国際的な視野に立って高度な数学・数理科学の文化を醸成して社会の発展に資することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院数理科学研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に修士(数理科学)の学位を授与します。 ● 数学・数理科学に関する体系的な知識を備え、数学・数理科学の各専門分野において独創的な研究を遂行する能力、または数学・数理科学の幅広い素養と専門的な判断力を身につけ、高度に専門的な職業に従事できる能力を有していること。 ● 国際的な視野に立って高度な数学・数理科学の文化を醸成して社会の発展に貢献することができること。 ● 所定の単位を修得し、修士論文を提出して、研究科の定める修士論文の審査基準に基づく審査および最終試験に合格すること。	東京大学大学院数理科学研究科修士課程は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施し、学位論文に基づく研究能力の審査及び試験を厳格に行います。 ● 数学・数理科学の各分野について、専門的基礎知識に関する講義および高度な専門的トピックスに関する講義を行う。 ● きめ細かな少人数教育に基づき、セミナーによる個別指導を行うことによって、数学・数理科学の各分野における基本的な研究手法を修得させ、修士論文に取り組ませることにより、研究者あるいは専門的な職業人としての基礎を涵養する。 ● 各科目において適切に定められた評価基準によって成績評価を行い、修士論文の審査や試験を厳格に行う。	1. 東京大学大学院数理科学研究科修士課程は、数学・数理科学の知識を体系的に修得し、数学・数理科学の諸分野において、第一線で活躍する研究者、ならびに数学・数理科学の幅広い素養と広い視野から専門的な判断力を身につけ、社会の広範な領域で新しい時代を担い、国際的に活躍することを目指す学生を求めます。 2. 入学者の選抜は、筆記試験、口述試験及び出身学校の学業成績により、以下の点を評価し選抜します。 ● 数学・数理科学の専門分野を学び、研究に取り組むための十分な基礎学力と論理的思考法を身につけていること。 ● 将来国際的な場でも活躍しうる外国語能力の基礎を具備していること。

数理科学研究科（博士課程）

教育研究上の目的

数学・数理科学に関する体系的な知識と高度な研究能力を修得し、数学・数理科学の諸分野において、第一線で活躍する研究者、ならびに数学・数理科学の幅広い素養と専門的な判断力を身につけ、社会の広範な領域で新しい時代を担う人材を育成し、国際的な視野に立って高度な数学・数理科学の文化を醸成して社会の発展に資することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院数理科学研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に博士(数理科学)の学位を授与します。 ● 数学・数理科学に関する体系的な知識と高度な研究手法を修得し、数学・数理科学の各専門分野において独創的な研究を遂行する能力、または高度に専門的な職業に従事できる卓越した能力を有していること。 ● 国際的な水準の研究成果を発表し、国内外における当該分野の研究を先導することができる。あるいは高度に専門的な職業の当該職域におけるリーダーとして社会に貢献することができること。 ● 所定の単位を修得し、博士論文を提出して、研究科の定める博士論文の審査基準に基づく審査および最終試験に合格すること。	東京大学大学院数理科学研究科博士課程は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施し、学位論文に基づく研究能力の審査及び試験を厳格に行います。 ● 数学・数理科学の各専門分野の研究を実践させることを通して、その創造的発展に積極的に寄与しうる研究者あるいは高度な専門職業人を養成する。 ● 数学・数理科学の各専門分野における国内外の最先端の研究成果を学ぶ機会を提供し、当該分野における研究テーマに関する研究指導によって、博士論文を完成させるとともに、国際的なレベルで研究を先導しうる能力を涵養する。 ● 各科目において適切に定められた評価基準によって成績評価を行い、博士論文の審査や試験を厳格に行う。	1. 東京大学大学院数理科学研究科博士課程は、自らが専門的研究の一翼を担おうという使命感を持ち、大学院で獲得した高度な数理的思考力と研究能力を礎として、数学・数理科学の各専門分野において独創的な研究を遂行し、国内外における当該分野の研究を先導する研究者、ならびに高度に専門的な職業に従事できる卓越した能力を持ち、当該職域におけるリーダーとして社会に貢献することを目指す学生を求めます。 2. 入学者の選抜は、修士の学位論文又はこれに代わるものの審査、口述試験及び出身学校の学業成績により、以下の点を評価し選抜します。 ● 数学・数理科学に関する体系的な知識を具え、数学・数理科学の各専門分野において独創的な研究をする能力を有していること。 ● 志望分野において、先駆的な研究課題を自ら設定することができる、明晰な論理に基づいて、課題を解決する能力をもつこと。 ● 国際的な水準の研究成果を発表することができるための基礎的な能力を具えていること。

新領域創成科学研究科（修士課程）

教育研究上の目的

学融合を通じて新たな学問領域の創成を目指した教育と研究を行うことを目的とする。現代社会の要請とその変化に対応して、人類が解決を迫られている課題に果敢に挑戦するとともに、領域横断的な視点と高度な問題解決能力を有する国際性豊かな人材を育成し、もってより良い社会の実現に積極的に貢献していく。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院新領域創成科学研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成し、所定の単位を修得し、学位論文審査及び最終試験に合格した学生に修士の学位を授与する。 ● 学融合の精神に基づき、新たな学問領域の積極的な開拓を行い、次世代の研究・指導リーダーとなるための最先端科学知識・技術を修得している。 ● 国際社会でリーダーシップを発揮し、積極的な交流と協力を推進するための素養を修得している。 ● 高い研究倫理意識のもと、社会からの要請に応じて問題解決に貢献するとともに、豊かな未来社会をデザインする能力を発揮するための素養を修得している。	東京大学大学院新領域創成科学研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。 ● 学融合を目指す柔軟かつ実践的な分野横断型カリキュラムの編成、学融合型研究教育プログラムを充実させる。 ● 国内外の学生が共に学び研究を行うための授業・カリキュラムを整備する。 ● 研究倫理教育を推進する。また、附置研究所、学外研究機関と連携した最先端研究体験や、地域・社会連携実験プログラムを通じた実地教育を充実させる。 ● カリキュラム・教育プログラムの課題および学修達成度評価基準を明示するとともに、学位論文審査及び研究能力の試験を厳格に行う。 ● 各科目の成績評価は、試験やレポートの成績、授業内での取り組み状況などに基づき、科目ごとに学修達成度を適切に反映する基準を定めたうえで行う。	1. 求める学生像 東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程は、志望分野及び関連分野に関する十分な基礎学力、および語学・コミュニケーション能力を備え、将来、多様な分野を融合した研究成果を創出できる学生を求める。 2. 入学者選抜の基本方針 上記1.の求める学生像に基づき、筆記試験・口頭試問等による個別の学力検査により、以下の項目を総合的に評価し選抜を行う。 ● 志望分野及び関連分野に関する基礎知識 ● 論理的に思考し、説明する能力 ● 英語でコミュニケーションする能力 ● 課題を自ら発見し、解決する能力 ● 多様な分野を能動的に学ぶ意欲

新領域創成科学研究科（博士課程）

教育研究上の目的

学融合を通じて新たな学問領域の創成を目指した教育と研究を行うことを目的とする。現代社会の要請とその変化に対応して、人類が解決を迫られている課題に果敢に挑戦するとともに、領域横断的な視点と高度な問題解決能力を有する国際性豊かな人材を育成し、もってより良い社会の実現に積極的に貢献していく。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院新領域創成科学研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成し、所定の単位を修得し、学位論文審査及び最終試験に合格した学生に博士の学位を授与する。 ● 学融合の精神に基づき、新たな学問領域の積極的な開拓を行い、次世代の研究・指導リーダーとなるための高度な最先端科学知識・技術を修得している。 ● 国際社会で創造的にリーダーシップを発揮し、自立して積極的な交流と協力を推進するための素養を修得している。 ● 高い研究倫理意識のもと、社会からの要請に応じて問題解決に貢献するとともに、豊かな未来社会をデザインする卓越した能力を発揮するための素養を修得している。	東京大学大学院新領域創成科学研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。 ● 最先端の研究を通じた柔軟かつ実践的な分野横断型カリキュラムを編成し、卓越した専門的知識と技能を習得することのできる学融合型研究教育プログラムを充実させる。 ● 体系的な研究指導体制を通じて研究倫理教育を推進する。また、附置研究所、学外研究機関と連携した最先端研究体験や、地域・社会連携実験プログラムを通じた実地教育を充実させる。 ● カリキュラム・教育プログラムの課題および学修達成度評価基準を明示するとともに、学位論文審査及び研究能力の試験を厳格に行う。 ● 各科目の成績評価は、試験やレポートの成績、授業内での取り組み状況などに基づき、科目ごとに学修達成度を適切に反映する基準を定めたうえで行う。	1. 求める学生像 東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程は、専門分野での基礎的な研究遂行能力、および語学・コミュニケーション能力に基づき自立して研究を行う強い意欲を持ち、将来、多様な分野を融合し、卓越した研究成果を創出できる学生を求める。 2. 入学者選抜の基本方針 上記1.の求める学生像に基づき、筆記試験・口頭試問等による個別の学力検査により、以下の項目を総合的に評価し選抜を行う。 ● 専門分野又は関連分野における研究経験 ● 専門分野及び関連分野に関する高度な知識 ● 論理的に思考し、説明する能力 ● 英語でコミュニケーションする能力 ● 志望分野において、先駆的な研究課題を自ら設定し、解決する能力 ● 多様な分野を能動的に学ぶ意欲

情報理工学系研究科（修士課程）

教育研究上の目的

情報理工学の体系的知識を身につけ科学的手法を追究して情報科学技術に関わる研究や開発を主導することのできる人材を養成し、情報理工学の発展に貢献することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院情報理工学系研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成し、所定の単位を修得し学位論文審査及び試験に合格した学生に修士（情報理工学）を授与する。 ● 情報理工学に関する専門的知識と広い視野を体系的に身につけ、科学的手法に基づいて情報科学技術に係る研究や開発を主導することができる。 ● 社会のニーズを踏まえ、情報理工学に係る学識を基盤として、高い倫理と責任をもって社会の発展に大きく寄与できる能力を有する。 ● 情報理工学に関する基礎力を持ち、国際的な場での活躍に必要な素養を備え、未踏の課題を解決し、未来を切り開く能力を有する。	東京大学大学院情報理工学系研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。 ● 情報科学技術の基礎を学べるように、体系的なカリキュラムに基づいた情報理工学に関する専門科目を提供し、さらに演習や輪講を通じて実践的な技能や思考能力を鍛える。 ● 各学生に指導教員を割り当て、副指導教員等の専門家との議論に基づく実質的な専門知識と広い視野の獲得や論文作成等に係る研究指導体制を整備する。 ● 学術界のみならず産業界と連携して教育を行う場を提供する。また、国外の大学や研究機関との連携協力をを行い国際交流の場を提供することで国際的に活躍できる素養を身につけさせる。 ● 情報理工学に関する専門知識を有する複数の教員により、論文内容の精査、口頭試問を通じて修士論文における研究成果を審査する。 ● 各科目の学修成果の評価にあたっては、本学及び研究科で定める成績評価基準並びに科目ごとに明示した評価方法に従って厳密に行う。	1. 東京大学大学院情報理工学系研究科修士課程は、専門分野を学ぶための十分な基礎学力を具えており、情報科学技術に関わる諸問題の解明を目指し、社会の発展に大きく寄与するという理念を踏まえて、国際的な場で活躍することのできる学生を求める。 2. 入学者選抜においては、以下の点を満たしていることを、書類選考、筆記試験、口述試験等を通して総合的に評価する。なお、評価方法等の詳細については募集要項に記載のとおりとする。 ● 志望分野に関する知識とともに、情報理工学全般にわたって基礎知識を有していること。 ● 情報理工学に係る学識に基づいて、社会の発展に貢献するポテンシャルを有していること。 ● 将来グローバルな場でも活動しうる語学能力の基礎を具えていること。

情報理工学系研究科（博士課程）

教育研究上の目的

情報理工学の体系的知識を身につけ科学的手法を追究して情報科学技術に関わる研究や開発を主導することのできる人材を養成し、情報理工学の発展に貢献することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院情報理工学系研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成し、所定の単位を修得し学位論文審査及び試験に合格した学生に博士（情報理工学）を授与する。 ● 情報理工学に関する高度な専門的知識と的確な論理的判断能力を体系的に身につけ、科学的手法に基づいて情報科学技術に係る研究や開発を主導し、情報理工学の学問的発展に貢献することができる。 ● 情報理工学に係る深い学識を基盤として、社会のニーズを迅速に察知し高い倫理と責任をもって社会の発展に大きく寄与できる能力を有する。 ● 情報理工学に関する深い洞察力を持ち、国際的な場での活躍に必要な能力を備え、未踏の分野を創り出し、未来を切り開く実力を有する。	東京大学大学院情報理工学系研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。 ● 情報科学技術の高度な知識を学べるように、体系的なカリキュラムに基づいた情報理工学に関する専門科目を提供し、さらに演習や輪講を通じて実践的な技能や深い洞察力を鍛える。 ● 各学生に指導教員を割り当て、副指導教員等の専門家との議論に基づく専門知識の深化と的確な論理的判断能力の獲得や論文作成等に係る研究指導体制を整備する。 ● 学術界のみならず産業界と連携して教育を行う場を提供する。また、国外の大学や研究機関との連携協力を行い国際交流の場を提供することで国際的に活躍できる能力ならびにリーダーシップを身につけさせる。 ● 情報理工学に関する専門知識を有する複数の教員により、論文内容の精査、口頭試問を通じて博士論文における研究成果を審査する。 ● 各科目の学修成果の評価にあたっては、本学及び研究科で定める成績評価基準並びに科目ごとに明示した評価方法に従って厳密に行う。	1. 東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程は、専門分野に関する学識をもち、社会の発展に貢献するため、自らが専門的研究の一翼を担おうという使命感を持ち、情報理工学の分野で卓越した知を創出することのできる学生を求める。 2. 入学者選抜においては、以下の点を満たしていることを、書類選考、筆記試験、口述試験等を通して総合的に評価する。なお、評価方法等の詳細については募集要項に記載のとおりとする。 ● 志望分野に関する専門的知識とともに、情報理工学の研究を通じ学術の進展に寄与する能力を有していること。 ● 社会のニーズを踏まえて先駆的な研究課題を自ら設定することができ、情報理工学に係る学識に基づいて課題の解決に取り組む能力を有していること。 ● グローバルな場で活躍するための語学能力と、将来社会の発展に貢献し得る資質を具えていること。

学際情報学府（修士課程・博士課程）

教育研究上の目的

東京大学大学院学際情報学府は、全学の情報関連教育研究組織の有機的な連携のもとに学際的かつ実践的な学びの環境を提供し、高度情報化社会の諸分野で求められる情報の処理技術、それらの社会的な意味や機能に関する高度な知識を幅広く有する人材を育成することを目的とします。とくに学際情報学府では、実践的な情報リテラシーを身につけた人材養成と社会人再教育を行うと同時に、文理融合的に情報学のフロンティアを切り開く研究者・表現者の養成をおこないます。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院学際情報学府は、本学府の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に修士（社会情報学／学際情報学）又は博士（社会情報学／学際情報学）の学位を授与します。 修士課程 ● 社会情報学、学際情報学（文化・人間情報学／先端表現情報学／総合分析情報学／アジア情報社会／生物統計情報学）いずれかの分野に関する深い学識を身につけるとともに、それをもとに情報、メディア、そしてデータが基盤的役割を果たす現代社会の問題を学際的に解決するための理論的・実践的能力を有すること。 ● 研究成果を内外に発信する語学力、及び国際的に積極的な交流・協力をするために必要な基礎的コミュニケーション能力を持つこと。 ● 高い倫理感と責任感を持ち、学術研究あるいは社会的実践において、積極的に行動する能力を持つこと。 博士課程 ● 社会情報学、学際情報学（文化・人間情報学／先端表現情報学／総合分析情報学／アジア情報社会）いずれかの分野における深く幅広い学識をもち、情報、メディア、そしてデータが基盤的役割を果たす現代社会の問題の解決に貢献する理論的・実践的な知を創造する能力を有すること。 ● 研究成果を内外に発信する語学力、及び国際的に積極的な交流・協力をするために必要なコミュニケーション能力を持つこと。 ● 高い倫理感と責任感を持ち、学術研究あるいは社会的実践において、先導的な役割を担い新たな貢献をなす能力を持つこと。	東京大学大学院学際情報学府は、本学府の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。 修士課程 ● 学際的な素養を涵養するため、概論科目を設置する。多様な専門分野の研究者に接する講義、並びに、異なる専門分野の学生が協力して現代社会の問題に取り組むプロジェクト学習形式の授業を提供する。 ● 修士研究を遂行するのに必要な理論的知識と実践的方法を習得するために、専門領域ごとの基礎科目と方法論科目を設置する。 ● 倫理観と責任感を育成するために研究倫理教育を徹底する。 ● 研究成果の国際的発信を促すために英語による報告・論文執筆を支援する授業を提供する。 ● 研究指導の一環として、専門分野の教員だけではなく、異なる分野の教員から助言を受ける複数の機会を用意する。また、学生が相互に切磋琢磨できる機会を提供する。 ● 学習成果の評価は、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格に行う。 博士課程 ● 博士研究の専門分野に応じた理論及び方法論について研究指導を行う。 ● 高度な倫理観と責任感を育成するために研究倫理教育を徹底する。 ● 研究成果の国際的発信を促すために英語による報告・論文執筆を支援する授業を提供する。 ● 博士論文を計画的に執筆できるように、研究の進捗を定期的に報告する機会を提供する。その際、専門分野の教員だけではなく、異なる分野の教員からも指導が受けられるようにする。また、学生が相互に切磋琢磨できる機会を提供する。 ● 博士論文の他、学術誌や国内外での学会における発表状況などに基づき、学習達成度を適切に反映する基準を定め、評価を行う。	修士課程 1. 求める学生像 東京大学大学院学際情報学府修士課程は、専門分野を学ぶための十分な基礎学力を具えており、情報現象についての文理を越境する幅広い視野と、社会情報学からコンピュータ科学までの高度な専門的能力とを、同時に習得したいという高い意欲を有し、かつ、既成の概念にとらわれない新鮮な着想力を持って、情報学のフロンランナーとして、未知の問題の解決に向けて独創的かつ文理融合的なスタンスで取り組むことができ、情報学の分野で新たな知を創出することのできる学生を求めます。 2. 入学者選抜の基本方針 上記1.の求める学生像に基づき、書類選考・筆記試験・口頭試問等による個別の学力検査により、以下の点を総合的に評価し選抜を行います。 ● 志望分野に関する専門的知識を有しているとともに情報学全般にわたって広い知識をもつ人材になりうる基礎を具えていること。 ● 志望分野において自らが主体的に問題を発見し、自らが有する専門知識と研究手法に基づいてそれを解決する能力をもつ人材になりうる基礎を具えていること。 ● 将来国際的な場でも活動しうるだけの語学能力の基礎を具えていること。 博士課程 1. 求める学生像 東京大学大学院学際情報学府博士課程は、情報に関連するさまざまな現象について、文理を越境する幅広い視野と知的好奇心、研究テーマを学問的に展開させるための専門的能力を有し、それをさらに深める意欲を有し、かつ、既成の概念にとらわれない新鮮な着想力と、斬新な研究をやり遂げる堅実な実行力を持って、情報学のフロンランナーとして、未知の問題の解決に向けて独創的かつ文理融合的なスタンスで取り組むことができ、情報学の分野で卓越した知を創出することのできる学生を求めます。 2. 入学者選抜の基本方針 上記1.の求める学生像に基づき、修士論文（又はこれに替わるもの）・筆記試験・口頭試問等により、以下の点を総合的に評価し選抜を行います。 ● 志望分野に関する深い専門的知識を有しているとともに情報学の研究を通じ学術の高度化に寄与する能力をもっていること。 ● 志望分野において、先駆的な研究課題を自ら設定することができ、自らが有する専門知識と研究手法に基づいて、課題を解決する能力をもっていること。 ● 研究成果を国内外に効果的に発信するための語学能力を具えていること。

公共政策学教育部（博士課程）

教育研究上の目的

国際的視野のもとで現代社会の直面する課題を発見し、課題の解決に必要な政策と制度を構想する力をもった、時代の要請に応える政策実務家を育成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院公共政策学教育部（博士後期課程）は、教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に博士（公共政策学）の学位を授与する。 ● 高度専門的業務に従事するために必要な高度な研究能力に加え、学際的視座や国際的実務的能力を含む幅広い豊かな学識・能力を有すること ● 有すべき能力に関して学習する授業科目を履修し、修了要件に従って、学習成果としての単位を必要数修得していること ● 博士論文を提出し、試験に合格すること	東京大学大学院公共政策学教育部（博士後期課程）は、学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。 ● 専門分野（法学政治学、経済学）における高度な専門的な研究能力に加え、学際的能力、国際的実務的能力を持つ高度な博士人材を養成するための教育プログラムを提供する。 ● 専門応用科目として、主要対象分野である国際金融・開発、国際安全保障、科学技術政策に関して、国際金融・開発研究、国際安全保障研究、科学技術政策研究を設ける。 ● 実務的能力を教授するために、実務家教員等による実践科目として、国際公共政策実践研究を設ける。 ● 学際的視座を踏まえた独創的な課題設定、現場の課題を踏まえた研究の設計と実施を行うために、法学政治学及び経済学分野の教員が共同で実施し、多様な専門の学生が同時に受講する研究デザイン演習（Research Design Seminar）、プロジェクト演習（Project Seminar）を設ける。 ● 研究指導教員の責任の下で、研究指導協力教員も参画する国際公共政策研究により、博士論文指導を行う。 ● 授業科目の成績は、本学及び教育部で定める成績評価基準並びに科目ごとに明示した評価方法に従って、学習達成度に応じて評価を行うことを原則とする。 ● 博士論文は、研究計画構想発表（Proposal Review）を経て、予備審査（Interim Review）に合格したのち、学位論文審査および最終試験（口述試験）（Final Review）に合格しなければならない。	東京大学大学院公共政策学教育部（博士後期課程）は、教育研究上の目的に定める人材を養成するため、以下の資質を持つ学生を求める。 ● 高度な研究能力を持ち、研究を基盤として独創的な課題設定を行い、様々な専門的知見を組み合わせることで解決策を構築・評価し、更に、グローバルな視点を持ってそれを迅速に実施していく、高い倫理観を持った公共政策に関わるリーダーを目指す人 ● 法学政治学または経済学の専門的基礎を有し、研究能力を高めることのできる人 入学者選抜は、上記の学生像に基づき、書類審査及び口述審査により、以下の点を総合的に判断して評価を行う。 ● 志望分野に関する専門的知識を有するとともに、公共政策学の研究を通じ社会の発展に寄与する意欲をもっていること。 ● 志望分野において、先駆的な研究課題を自ら設定することができ、公共政策学に係わる学識に基づいて課題を解決する基礎的能力をもっていること。 ● グローバルな場で活躍するための語学能力と、課題の解決策を社会に働きかけ実現していく素養をもっていること。

公共政策学教育部（専門職学位課程）

教育研究上の目的

国際的視野のもとで現代社会の直面する課題を発見し、課題の解決に必要な政策と制度を構想する力をもった、時代の要請に応える政策実務家を育成することを目的とする。

学位授与方針	教育課程の編成・実施方針	入学者受入方針
東京大学大学院公共政策学教育部は、教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に公共政策学修士（専門職）の学位を授与する。 ● 法学、政治学、経済学それぞれの分野について、基礎的な幅広い知識及び専門性を身につけていること。 ● 広く公共政策に関わる高い倫理観をもち、国際的視野のもとで課題発見、解決案の提示、政策形成、コミュニケーションを行う力を身につけていること。 ● 身につけるべき能力に関して学習する授業科目を履修し、各コースの修了要件に従って、学習成果としての単位を必要数修得していること。	東京大学大学院公共政策学教育部は、学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。 ● 法学、政治学、経済学それぞれの分野について、基礎をなす知識と分析能力を身につけることを目的とした基幹科目及びより高度な専門性を修得することを目的とした展開科目をバランス良く体系的に配置する。 ● 具体的な事例をもとに、事例分析の手法によって知識の応用と事例を通じた政策分析能力の向上を目的とする事例研究を提供する。 ● 実務への応用を念頭に、実務の経験を学ぶことを目的とする実践科目を提供する。 ● 国際的な視野を広めるとともに、国際化に対応するコミュニケーション能力を身に付けるため、英語による多様な授業科目を提供する。 ● 学生の計画的・段階的な履修及び個々の授業科目において十分な学習時間を確保するため、年間登録単位数の上限を設定する。 ● 各授業科目において透明で厳格な成績評価を行う。 ● 授業科目の成績は、本学及び教育部で定める成績評価基準並びに科目ごとに明示した評価方法に従って、筆記試験又はレポート等および平常点により評価を行うことを原則とする。 ● 教育の内容、方法を検証し、学生による授業評価をも参照し、教育の質の向上を図る。	東京大学大学院公共政策学教育部は、教育研究上の目的に定める人材を養成するため、以下の資質を持つ学生を求める。 ● 大学院で獲得した高度な専門知識と実務的な能力を礎に、高い倫理観をもった公共政策に関わるプロフェSSIONAL及びリーダーとして内外での活躍を目指す人。 ● 現代社会が直面する諸課題を適切に認識し、これらの課題に対する対応策を構築・評価して、国民にこれらを伝達し、合意を形成することが出来る人。 ● 政策立案、実施、評価能力の基礎となるレベルの高い法律学、政治学、経済学についてバランスよく学習し、これを具体的な実践と結びつけることができる人。なお、大学の専門教育において法学・政治学・経済学・国際関係論などを学んでいることが望ましい。 入学者選抜は、上記の学生像に基づき、入学願書審査、外国語審査、筆記試験又はその他の方法による専門科目審査、口述試験の全て又は一部により、以下の点を総合的に判断して評価を行う。 ● 志望分野に関する知識とともに、公共政策学全般にわたって基礎知識をもっていること。 ● 志望分野において自らが主体的に問題を発見し、自らが有する専門知識に基づいてそれを解決する能力をもつ人材になりうる基礎をもっていること。 ● 将来国際的な場でも活躍しうる語学能力の基礎をもっていること。